第１回全国高校教育模擬国連大会

報告書

目次

P2-6	実行委員代表より
P7	大会概要
P8	受賞校一覧
P9-P28	受賞者のコメント
P29-P31	参加者アンケート
P32-P33	主催団体からのメッセージ
P34	支援者・支援団体一覧
P35	参加校一覧
P36	大会役員一覧
P37-P38	実行委員一覧

開催日時：2017 年８月７日 (日)、８日（月）

開催場所：国立オリンピック青少年総合センター

主催：公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）

全国中高教育模擬国連研究会 (全模研)

実行委員代表より

実行委員長／総務広報セクションリーダー

飯田優太郎（浅野高等学校　二年）

大会当日、初日の会場等のトラブルなどがあったものの各実行委員が臨機応変に対応し問題なく、無事に会議を終えることが出来たのでほっとしています。第一回目の大会なのにも関わらず 500 名もの方々に参加していただけたので自分達の当初の一番重要な目標である「模擬国連の普及」ということを達成できたのではないかと思います。

総務広報セクションとしては、その任務の多くが大会前の準備段階のものでありました。初開催であることから参考にするものが全くなく何をこれからしていくのかということを全て自分達で考えました。初心者にもわかりやすい大会にするという目標を第一に、ルール紹介動画や、ネット上での質問受付など高校生の目線からでしかわからないようなアイデアを実行委員が出してくれたので今までの他の模擬国連会議とは一線を画した会議にできたのではないかと思います。ネット上でしかコミュニケーションがとることが出来ないので、全員の意思疎通がうまくいかなかった場面も時にはありましたが、各実行委員が積極的に行動をしてくれたので準備は順調に進んだと思います。しかしながら、各実行委員が個人個人で活動してくれるがゆえに本来リーダーである自分のもとにすべての情報が回ってくるはずなのに実行委員が顧問の先生と直接連絡を取っているときなどの情報が自分のところに届いていなかったということがあったので、そういった情報の管理を徹底するべきであった反省しています。また途中で思いついた新たなアイデアなどが準備の時間の関係でできなかったことがあるので次年度に実行できるようにしてほしいです。

今後この大会をより良い、意義のある大会にしていくために最も重要なことはより多くの初心者、地方の高校の方々に参加していただくことです。今回の大会は、初めて模擬国連に参加してくださる学校もあったものの、多くは全日本大会に参加経験のある学校であった印象があります。初開催の大会ということで私たちは広報のために時間を割くことが出来ませんでした。より多くの初心者の方に来てもらうには情報の拡散というのは非常に重要な要素であるため、来年度は募集に関する係と広報の係に分けるなどして綿密な計画を立てて戦略的に広報をやっていってほしいです。

模擬国連を広めたいという思いと同時にリーダーとはどういうものなのかを学びたいという思いで委員長に応募させていただきましたが、この大会を通じて学ぶことが出来たのでよかったです。しかしながら、自分の言葉の選択や実行委員のモチベーションの維持などまだまだ自分にはリーダーになるには不十分ところが多々あることが分かったので今後の生活に活かしていきたいです。

最後になりましたがこうして大会を無事終えることができたのは、後援、協賛、協力をしてくださった団体の皆様、それから高校生だけではできない部分を手伝ってくださった顧問の先生、ACCU の職員の方のおかげです。また一所懸命に仕事をしてくれた実行委員の生徒にも感謝しています。ありがとうございました。

副実行委員長

尾先 由崇（札幌日本大学高等学校　二年）

私が今大会の実行委員に応募したのは「住んでいる場所に関わらず、日本全国の高校生に模擬国連の素晴らしさを知ってもらいたい」という思いからです。大会に出場する大使はもちろんのこと、運営する実行委員も全国の高校生であるということから、大会運営の準備は全てサイバー上のみで進行しました。サイバー上のみでの準備という点に関しては、なかなか苦戦するのではないかと予想していましたが、各自が責任をもって与えた仕事を行ってくれたことや、あらかじめ決めた時間に全員で通話会議をする等、情報の共有には十分な注意を払っていたことにより、総務広報セクションでは大きな問題はなく、無事に当日を迎えることができました。ただ、全てが完璧であったというわけではありません。私には大きく欠けているものがありました。それは、リーダーに求められる「各自の適性に応じて、仕事を上手く振り分ける」ということです。私には、仕事を振り分けようという意思はあったものの、気づいたら自分ひとりで終わらせていたという事が多かったという自覚があります。サイバー上のみでの活動において最も重要なことは、情報共有と全体の統率です。よって、副委員長であった私も含めリーダーである３名は、全体の統率者として他セクションとの連携を図り、大会運営全体への責務を果たすべきだったと反省しています。この点においては、次年度への反省として繋げたいと思います。

サイバー上のみでの運営準備が、直接会って準備することより難しいというのは当たり前のことですが、グローバル化が進み、国境を越えて企業間や政府間ではサイバー上での会議、ビジネス、交渉が当たり前のように行われています。これからの時代は、よりグローバル化が進行することと思います。このような時代背景がある中で、高校生が全国規模の大会の運営準備をサイバー上のみで行い、成功させたということには、大きな可能性と将来性を秘めているのではないかと私は考えます。次年度以降の大会運営においても、より多くの全国の高校生が実行委員として、大会運営準備をサイバー上で進め、より良い大会を作っていければと思います。

上記のとおり、大会準備に大きな問題は無かったわけですが、「第１回の全国高校教育模擬国連大会は成功だったと思うか」と聞かれたら、私は「いいえ」と答えます。それは多くの初心者がこの大会に参加したものの、その初心者の多くが関東圏の学校であり、地方から参加した学校はごくわずかであったという結果からです。この結果には、総務広報セクションの重要な役割であった広報業務が不十分であったということがはっきりと表れていると私は考えます。私の目標は「自分が住む北海道を含めた日本全国の地方の高校生にも、模擬国連の素晴らしさを伝えること、経験させること」です。この目標を全国のモギコッカーの仲間たちと共に、次年度の大会でこそは達成したいと強く私は願っています。そのためにも、今大会での反省をしっかりと踏まえ、来年度の大会へと繋げていこうと思います。

副実行委員長

橋本周大（東大寺学園高等学校　三年）

第一回教育模擬国連が終了して早一ケ月が経ちますが、大会の熱気を今でも思い出します。 今回私は副実行委員長という役目を頂き大会に臨みました。そこで行った二つの活動を紹介します。

一つは、大会告知の方法の工夫です。今回参加して欲しいターゲットは、模擬国連の初心者です。そして大会規模は国内の模擬国連の中で最大規模を目指しました。つまり、従来の大会に参加していなかった学校に情報が行きわたる広報が重要でした。当初はホームページでの告知や Facebook での宣伝を行いましたが、一次募集時では目標に程遠い人数にとどまっていました。そこで、過去の模擬国連に参加した人に、大会を知ったきっかけを尋ねてみると、学校からの案内という声が多かったため、新規の学校に直接連絡を入れることを顧問の先生方に提案しました。先生達から、突然連絡をいれるのは戸惑いも多いという指摘を受けたので、今回できることとして、一度告知を行ったことがある学校にファクシミリで連絡をするということに決定しました。嬉しいことに、この方法で何校か参加校が増えました。来年以降は、ファクシミリを含め、直接学校に働きかけを行うことで、さらなる参加者の増加を目指して欲しいと考えます。

もう一つは、交流会の開催です。今回の大会は全国の高校生が一同に介するという滅多にない機会です。会議という真剣に議論する場所にとどまらず、リラックスして交流できる場を設けたいと考え交流会を企画しました。また、実行委員が参加者と同じ目線で話を行える機会を提供する意図もありました。急な提案となったため、時間、場所、方法など様々な制約が発生しましたが、ピンチをチャンスととらえ、参加者をランダムに割り振った班に分ける形で行いました。当日は、私の予想をはるかに上回る 97%の参加率となり、大いに盛り上がったため、苦労しながらも準備した甲斐がありました。改善点も引き継ぎ、来年以降に生かしてほしいです。

この大会を通して私が学べたことがあります。それは、仲間を信頼し、仲間とともに一つのものを作り上げることの喜びです。さらに、同じ目標を共有する中では、指示は最小限でよいと実感したことです。自ら志願して参加した実行委員達なので、率先して臨機応変に行動している状況が随所で見受けられ、しばしば期待以上の動きもあり、ありがたかったです。実はなかなか連絡がなく、やきもきしたこともありましたが、きっと大丈夫、と信じることができました。私は今まであまりグループ作業は得意ではなく、むしろ個人で頑張ればよいと考えてきました。しかし今回は皆で協力して一つのことを成し遂げる素晴らしさを体感でき、自分としても成長できたと思います。このような素晴らしい実行委員と仕事ができたことは、一生の思い出に残ることで、今後もこのコミュニティとつながれるようにしていきたいと思います。

副実行委員長として記念すべき第一回大会に携わることができたことを、誇りに思います。至らなかった点も多いですが、無事終えることができたのは、全ての大会関係者のご協力のおかげです。心より感謝します。大会が来年再来年とさらに進化したものになるのを楽しみにしています。

運営受付セクションリーダー

小林妃奈（かえつ有明高等学校　二年）

「高校生で作り上げる模擬国連」というこの大会のモットーを常に念頭に置き、そこにある大きな意義を実感しながらセクションリーダーとして大会準備を進めてきました。

半年前に準備を開始した時は、どのような業務があるのか、どうセクションメンバーに振り分けるのか、わからないことが多く不安でしたが、顧問や周りの人のサポートもあり、リーダーの役を全うすることができました。メールでのやり取りが難しかったので、ライングループで電話会議をするなど生徒同士で知恵を出し合い、準備がスムーズに進むよう工夫しました。メンバー全員に平等に作業を振り分け、私はリーダーとして全体に指示を出す、また作成した書類をチェックする役に徹しました。作業担当とその内容、期日を記した表を作ったことで、セクション全体の作業を管理できたのでよかったと思います。ネームタグ作成担当に作業の指示を出すのが遅れ、前日準備で大量のネームタグを切る作業を増やしてしまうなど、不備があったことが反省点です。

大会前日に初めてメンバーで顔合わせをし、私も含めて全員が緊張していましたが、ともに作業をこなす中で会話も増え、楽しい雰囲気になりました。セクションに作業内容を指示すると同時に、他のセクションリーダー達と確認事項を共有し合ったことで、本番でお互いのすれ違いを防げたと思います。当日は、参加者受付、司会進行、議場運営など、それぞれの場面で運営セクションとして大会を盛り上げました。予定から変更した点がありながらも、実行委員が一体となって臨機応変に対応し、困難を乗り越えた後にはさらなる信頼関係と団結力が生まれました。最後まで実行委員で協力し、工夫をしながら私たちならではの会議を作り上げることができ、高校生による会議の意義を達成できたと感じています。

個人的には、リーダーという責任感のある立場から模擬国連に参加し、その仕事をやり遂げられる自分を確認できたことが大きな自信となり、成長につながりました。さらに、全国から集まったメンバーと深い絆ができ、仲間になれたことも大きな収穫でした。みんなが集まって起こしたエネルギーが全国規模の大会を成功させ、とても感動的で刺激的な経験となりました。ともに歩んだ仲間に心から感謝しています。ありがとうございました。

フロントアドミニセクションリーダー

上野 蘭晶（渋谷教育学園渋谷高等学校　二年）

無事大会を終えることができ、とても安心しています。この報告書では、「フロント・アドミニセクションリーダー」と「議長」の二つの視点から、第一回全国高校教育模擬国連大会を通して感じたことを書かせていただきます。

一点目、「セクションリーダー」として。フロント・アドミニセクションは大会の内容を決める、言わば、大会の「核」となる部分を握るセクションであるため、そのリーダーを務めるということは、大きな責任を感じていました。自分自身、これまで会議の運営側に回ったことはなく、自分の模擬国連人生の中で一度は「会議運営」に関わりたい、とずっと思っていました。今回は、実行委員も全国から集められたため、会議準備は全てオンライン上で行いました。実行委員の中には、実際に会ったことがない人も多く、最初は「どこまで仕事を任せて良いのか」、「どこまで信用していいのか」などを心配し、あまり「仕事をふる」ということができていませんでした。そんな中、フロント・アドミニセクションのメンバーは皆、「なんでもやるので私にできることはありますか」と積極的にメールで連絡をくれて、私自身すごく救われました。大会が近づくにつれ、フロント・アドミニセクションの皆は信頼のできる仲間に変わっていきました。

私の学校がある関東は、比較的、練習会の機会に恵まれているため、時々会議を開いてもらえるという「運営」の大切さを忘れてしまいがちです。私自身、中学三年生の時に模擬国連を始め、高校二年生の今、残された会議は多くはありません。ひとつひとつ会議に参加できることに対する感謝の気持ちを忘れず、悔いのない模擬国連生活にしたいです。

二点目、「議長」として。議長も、私が模擬国連人生の中で一度は経験したいと思っていたことです。それは、私が模擬国連を始めたばかりの時、ある会議で議事進行がとてもわかりやすい議長に出会い、感動したことがきっかけです。いつか自分もあのようになりたいと思っていました。完璧とは程遠い議事進行でしたが、このような全国規模の大きな大会で議長を務めさせていただいたこと、本当に感謝しています。また、この会議を通して、少しでも「フロントをやってみたい、議長をやってみたい」と感じる人がいたら、この上ない幸せです。

模擬国連にはたくさんの魅力があると思います。会議ではうまくいかないことも多く、価値観の違いに苦しむこともたくさんありました。しかし、このような苦しみの先には、自分自身の大きな成長があると私は信じています。この会議開催に伴い、支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

大会概要

・開催日時：2017 年 8 月 7 日（月）、8 日（火）
・開催場所：国立オリンピック記念青少年総合センター (東京・代々木)
・主催：公益財団法人　ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
　　全国中高教育模擬国連研究会（全模研）
・大会規模：約 700 名（いくつかの議場に分かれて会議を行う）
・会議方式：全日本高校模擬国連大会と同じ方式（ハーバード形式）
・使用言語：日本語（ただし簡単な定型句などは英語を使用する場面があり）
・参加会費：3000 円
・議題：「核軍縮」

会議の特徴

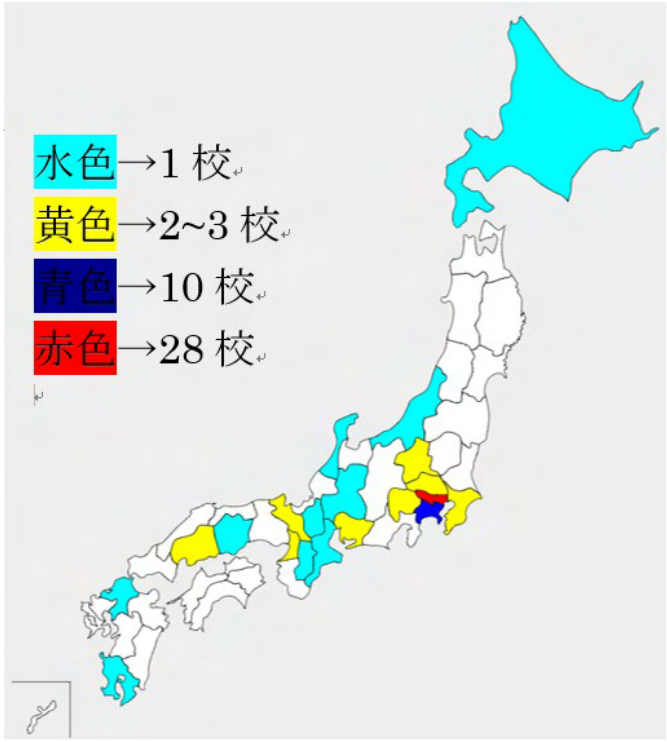
①会議中の使用言語

　今回は初心者を対象にした会議であったため、一般的な模擬国連会議と最も異なる部分は、会議中の使用言語であった。スピーチ・提出文書共に日本語という会議は初であったが、実際にはスピーチにしっかり耳を傾けている様子も目にし、また、提出文書も日本語であったため、内容の濃い決議案が提出された。会議の「核」となる部分を日本語にしたことで、結果的に初心者のみならず、経験者にとっても、わかりやすいものとなった。

②高校生による全国大会の運営

i) 11 月に開催される高校模擬国連全日本大会のような書類選考はなく、誰でも参加できるようにした。
ii) 今大会を広く知ってもらえるように Facebook を利用して広報・告知等を行った。
iii)FAX による広報活動を行うことで、従来模擬国連に参加していなかった学校にも情報がいきわたるようにした。
iv) 会議を超えた参加者の交流の場を設けた。
v) 全国からの参加者がいる大会であるため、ネット上で参加者や引率者が気軽に質問できる体制とした。
vi) 全国に参加者がいるのでパソコン上で様々なデータを共有した。

＜参考：都道府県別出場校数＞



③初心者へのサポート

i) 会議での使用言語を基本的に日本語にすることで初心者にとって複雑なルールを簡単にした。
ii) 初めて模擬国連に参加する人が多いというこの大会の特性を鑑み、また、模擬国連の流れをつかむことができる説明動画を実行委員で作成した。
iii)「リサーチの手引き」を作成した。

受賞校一覧

【A 議場】

最優秀賞	RUSSIAN FEDERATION	海城高等学校
優秀賞	UNITED STATES OF AMERICA	渋谷教育学園幕張高等学校
優秀賞	FRANCE	西大和学園高等学校
優秀賞	UNITED ARAB EMIRATES	海陽中等教育学校
実行委員特別賞	D.P.R KOREA	西大和学園高等学校

【B 議場】

最優秀賞	UNITED KINGDOM	西大和学園高等学校
優秀賞	GERMANY	豊島岡女子学園高等学校
優秀賞	INDIA	西大和学園高等学校
優秀賞	MYAMMAR	市川高等学校
実行委員特別賞	FIJI	金沢大学付属高等学校

【C 議場】

最優秀賞	D.P.R. KOREA	渋谷教育学園幕張高等学校
優秀賞	AUSTRIA	浅野高等学校
優秀賞	FRANCE	浅野高等学校
優秀賞	CHINA	逗子開成高等学校
実行委員特別賞	ALGERIA	豊島岡女子学園高等学校

【D 議場】

最優秀賞	UNITED STATES OF AMERICA	浅野中学校
優秀賞	NORWAY	麻布中学校
優秀賞	BRAZIL	浅野中学校
優秀賞	ITALY	新潟明訓中学校
実行委員特別賞	IRAQ	東京韓国学校中等部

各議場の講評・賞受賞者のコメント

A 議場

【講評】　　**フロント・アドミニセクション　小林千夏（浦和明の星女子高等学校）**

A 議場では、それぞれが自国の政策、方針を事前に調べてきている事が感じられました。
グループ形成においても、リーダー国が率先して、他国の意見も聞き入れ、わかりやすく説明をしている様子が見られました。そして、自国のスピーチの順番が回ってきた時に、その都度状況に応じたスピーチを各国が行なっており、生きたスピーチをして、その後のアンモデやモデに活かしていました。また、何よりも大切である、自国の利益を守る、という事を各国の大使が念頭に置き、話し合いを進めていた様子は大変素晴らしかったです。

わからない事は積極的に質問し、よりよい会議にしたいという思いが A 議場全体から感じられました。大使のみなさんには教育模擬国連ならではの意義を存分に活かして頂けたと思います。最後になりますが、今回は初心者会議という事もあり、高校生が実行委員となりやりにくい事もあったと思います。ですが、今回の議題である「核軍縮」について、大使のみなさんで議論を深めていただく事が出来たと思います。実行委員としましても、皆さんの議論から沢山のことを学ばせて頂きました。

大使のみなさん、2 日間、本当にありがとうございました。

【賞受賞者のコメント】　　**最優秀賞　ロシア大使　海城高等学校 1 年　山田 健人**

国際問題への関心を持っていたことから模擬国連活動を始めた私にとって、模擬国連は、始めた頃は非常にやりがいのある活動だった。一人一人があたかも国家の代表になったかのように問題を考える。英語力、ディベート力、リサーチ力の強化などよりも、中学生や高校生が国際問題を考え、議論を積み重ねることによって、会議参加当初は思いもよらなかったような問題への解決策が生み出されることこそが、私にとっての模擬国連の醍醐味だ。ただ、模擬国連の会議の機会は決して多様とはいえず、参加を続けるにつれて、気づけば、同じような学校の同じような人たちとばかり会議を重ねていた。一般的に、問題を多角的に考えるには、様々な背景や価値観を持つ人が対処しなければならないものだが、次第に、知っている人同士での内輪の議論となってしまう傾向があった。 これは模擬国連の楽しみを少し損なうことにもつながった。

そんな私にとって、全国高校教育模擬国連大会は、全国の高校生とともに模擬国連をする絶好の機会だった。全国の舞台で、全く知らない人たちとどのような議論をし、果たしてどのような結果が生まれるのか、非常に楽しみだった。
会議前の準備にも必然的に普段より意欲的に取り組んだ。図書館に通い、綿密に資料を集め、議論を組み立て、多くの人に理解してもらうにはどうすればいいのかを考え尽くした。今まで模擬国連の活動を多く行っており、しっかりと準備し、会議にもきっと積極的に参加できるだろうと、今から思えば甘く考えていた。

しかし、大会初日は、議論をともに行うグループを形成することに失敗し、一時期は会議全体の議論から取り残されてしまった。活発に議論することができず、全国の高校生と議論を戦わせる場に立つことすらできていなかった。その間に、短い時間の中でしっかりと議論を主導して決議案をまとめ上げる大使、印象に残るスピーチをする大使、ユニークな発想を皆に理解してもらう大使、など様々な優秀な大使が活躍していた。圧倒された。自分が広い視野を持とうとして行っていた模擬国連の活動であるにも関わらず、狭い世界に閉じこもっていたということを強く気付かされた。会議に参加しているのに、それを外から眺めているような感覚に陥ってしまった。このままでは終われなかった。その夜は、決議案などの資料を読み込み、二日目に

備えた。

二日目は、もっと堂々と議論に参加していこうと意を決し、多くの国との交渉にあたった。自分の置かれた狭い世界から解放され、自分と違う地域出身の人の物腰柔らかな姿勢やユニークなアイディアに触れることができた。これほど多くの、言葉では言い尽くせない刺激を得た二日間は、今までの自分の人生の中でも、そう多くはない経験だ。純粋に、会議が楽しいと思えた。 模擬国連の楽しさを思い出させてくれた。

好ましい無秩序の中で、二つの決議がまとめられた。いずれも、高校生が真剣に話し合って生み出された、柔軟な発想を取り入れた決議となった。例えば、北朝鮮と核兵器保有国の緊張緩和や、イスラエルの核放棄のための中東での平和の実現。これらは、現実に今すぐ起こる可能性の低いものだろう。馬鹿げていると思われるのかもしれない。しかし、大人の世界で行われている、「現実的」な政策は、大抵うまくいっていない。とりわけ、国家の安全保障がかかる核軍縮は、それぞれ容易に妥協できず、議論が硬直している分野と言える。いつか方針を転換しなければ、問題の解決には至らないだろう。これは他の多くの問題にも言える。将来を担う私たちにはきっとそのような時が来る。その時に、柔軟に考え、議論して良い解決策を出す力が、この会議を通して培われたということは確かだろう。

海城高等学校１年　飯野 諒平

総勢 700 人近くに及ぶ生徒たちが集まった教育模擬国連大会。この全国大会に参加した理由はこの 4 年間続けている模擬国連の「全国大会のレベル」というものを知りたかったこと、全国の高校生と議論してみたかったことなどだ。全国レベルの模擬国連を体験すると懐の深さやスケールの大きさを感じた。

議題は「核軍縮」。現代社会において特に重大で未だ解決されていない問題だ。解決策が未だ見つかっていないからこそ、リサーチは大変で難しかったが、逆に具体的な政策を自由に考えられるというメリットもあった。世界で一番核保有している国であるロシアの大使であったため、かなりの責任や役目の重要さを感じた。そのようなロシアであるからこそ、文献や新聞記事、ネット情報などは多く、資料を探すのは比較的簡単であった。定期的にペアの山田君と集まり、意見や資料交換を行い、少しずつ PP（ポジションペーパー）や NP（ネゴシエーションペーパー）、WP（ワーキングペーパー）などを作成していった。

当日の議論や交渉においては、未だ解決されていない問題について話し合っているからこそ、各国大使との意見交換、具体的な政策提案が重要だった。特にロシアは世界最大の核保有国であることにより、多数が反対する核保有を正当化すること、核使用の安全保障を誓うこと、信頼醸成や対話を続けていくことを約束することなどが議場では求められた。しかしやはり未解決な問題であるため、（特に外交を行っていた自分にとって、）互いの共通点や意見のすれ違いを見つけるのは困難で、なかなか自分の DR や WP に合意してくれる国々、ともに協力してくれる国々を見つけるのは難しかった。第二アンモデにグループを結成するというかなり無茶なことを行ったが、結局スポンサー国０から２８へと登りつめた。外交と内政のバランスが良かったのかもしれない。また協力してくださった大使たちに感謝したい。

国連では全ての国の国益が保証される、各国が納得できるような政策案を練っていく。特に今回のような巨大な会場で大勢の大使たちと交渉しなくてはならなかった状況の中、人に命令されてやるのではなく、「自国にとって何がいいことなのか。」ということを考えながら、自分のやるべきことを見つけて、それを率先して行う力が必要だった。

全ての国々の国益を保証するために、自分の意見や考えを主張しながらも、相手の主張にも耳を傾けなくてはならない。また相手の主張を聞くことにより、自分の主張を考え直すことができたり、自国の立場や役割が明確になったりする。

教育模擬国連大会に参加したことや模擬国連に挑戦して見たことはこのような、「積極的に物事を行う重要さ」や「相手を尊重する大切さ」を教えてくれた。この教育模擬国連大会で得た力、経験を大切にしていき、それらを実際に活用できるような機会をどんどん増やしていきたいと思う。

最後にこの素晴らしい大会を運営・主催して頂いた先生、生徒、スタッフ方、また常に自分をサポートして頂いたグローバル部の部員、海城の先生方に感謝したい。ありがとうございました。

▲ A 議場集合写真

優秀賞　UAE 大使　海海陽中等教育学校　4 年（高校 1 年）　伊藤康陽

今回の教育模擬国連大会で優秀賞を受賞させていただいた A 会場、UAE 大使の伊藤康陽です。まずは、運営の皆様へこのような素晴らしい大会を企画、運営していたことに感謝の意でいっぱいです。本当にありがとうございました。このような大会で優秀賞を受賞できたことを光栄に思っています。

僕が本大会に参加した理由は、初心者向けの大会であるのにもかかわらず全国規模である、という一石二鳥な大会だと感じたからです。そもそも、僕が模擬国連の活動を開始したのも高校生になってからで、先輩から誘われて開始したものでした。もともと、将来的に政治に携わりたいと考えていましたので、そのようなことを考えられる絶好の機会だと感じ、活動開始しました。本大会に参加する前、数回の練習会に参加したのみであったのでまだ会議行動等に自信もないまま。そんな中で、学校側から初心者向けの大会があると聞かされ、これならば自分でも活躍できるのではと思い、参加したのが本大会です。

学校側で 2 組のペアが編成され、上級生の先輩と組むことになり、先輩には迷惑をかけられないと、その一心でリサーチ等の準備を進めて行きました。担当した国のデータを収集する中で、自国がどの分野に重視すべきかを判断することを考え続けました。僕たちが担当した UAE ならば、石油等の財産を活用することもでき、また核保有で話題となる隣国イラクとも比較的良好な関係にあるので、核軍縮や核不拡散に関しては議場全体に合わせ、核の平和的利用に関してエネルギー問題等の観点から論じてゆくスタンスをとることに決定しました。なので、準備で実際に行ったのはリサーチと、核の平和的利用に関する条文を考えてくることおみでした。

会議当日ではまず、議場全体を把握し、どこで主導権握ることができるかを模索するため、2 人で別行動を取りました。結果的に似た境遇にある中東諸国を巻き込みつつ、グループの中心的なスタンスを勝ち取ることができました。その後、社会情勢的に連携が難しいと思われるような国々とも連携を図り、周りの大使の協力の上でアメンドメントに成功することができました。その中で、一番大切だと感じたのはやはり諸大使との協力関係です。自分自身どのように条文を組み立てたりすべきかなど、わからない点が多々あり、周囲の大使の協力なくしては DR 作成等、議場を動かすことに成功することはできなかったと思います。

今回の大会を通じて、全国のさまざまな高校生と交流を深められ、そのうえで模擬国連への自分の愛着が一層深まりました。ここで得られた経験をこれからの模擬国連の活動や、人生全般において活用していきたいと強く感じています。

海陽中等教育学校５年（高校２年）　山本康太

今回の模擬国連大会は、私たち２人にとって初めての公式大会への参加となりました。事前リサーチはじめ、他校の多くの生徒の情報量や、その行動力に圧倒されることも多かった様に感じています。以下、本大会を通しての感想になります。

僕たち UAE は、核軍縮の議題になったとき、主役となる国ではないかもしれません。そのためか、事前リサーチには大変苦労した思い出があります。（英語でもう少し調べるべきだったのでしょうが…）なかなか日本語の資料が見つからなかったのです。ただ今になって強く実感するのは、テーマが「核軍縮」であるだけに、米ロのリサーチ負担は他国に比べて非常に大きいですし、むしろリサーチは比較的楽だったのかもしれない、ということです。また、当日の会議行動を振り返ってみれば、中東内でのコンセンサスを図るという意味で、納得のいく形をとれていたと思います。結局提出国になれなかったのですが…。原子力平和利用に対する、自国の国益を守ることの出来る DR 作成に成功したという点で、満足しています。

全体を通して感じたのは、「提出国になるということが必須ではないということ」。勿論、提出国になれるか否か、というのは大事な指標だとは思っています。ただし、私たちが各国を代表する大使として求められていることは、「自国の国益を守り抜くこと」。提出国になれるというのは、大きなアドバンテージになるとは思いますが、本来の目的ではないと思います。たとえ過半数の国数を獲得したとしても、「自国の国益を守り抜く」ためには、国際会議という性質故に、1 つでも多くの国の Yes がとれるように個別の交渉を進めることが必須になってくると思います。最後まで出来るだけ多くの国とのコンセンサスを図ろうとするべきです。

僕個人として、模擬国連の意義は、これが模擬である、ということにあると思っています。本来の国連で、今回のような核軍縮というテーマで、僕たち UAE をはじめとする中東諸国とイランやイスラエルが簡単に手を結ぶことはほぼ不可能なことだと思います。あるいは、韓国と北朝鮮が同じグループにいるなんて、まずあり得ない話です。模擬国連のアメンド提出には、こうした事態が時々発生するような気がします。例えば、本来の国連の場においては、イランと UAE は、最初から交渉する気がないかもしれません。模擬であるが故に、最終的なアメンドの方向がどうなるか、全く分かりません。各国の大使がお互いにその国の人間としての立場を置きながらも、どの国の大使とも交渉する機会が与えられているということに素晴らしい意義を感じています。

最後に、今大会でお世話になった各国の大使の皆さん、先生方、実行委員の方々に感謝申し上げます。

実行委員特別賞　北朝鮮大使　西大和学園高等学校２年　佐々木　開大・今津　隆弘

まずは今回北朝鮮大使として第一回全国高校教育模擬国連大会の A 議場に出席させていただいたことを感謝します。そして審査員特別賞というもっとも客観的な視点から選ばれたアワードをいただけてとてもうれしいです。
今回部活での取り組みということでこの新鮮な大会に参加したのですが、核軍縮が議題の会議でまさか北朝鮮大使を務めるなんて想像もしておらず二人してかなり驚くと同時に待ち遠しく感じていました。

会議準備では北朝鮮に関する核兵器の資料は無尽蔵にあり、さらには現在進行形で情勢が変化していたのでリサーチは楽しくもきりがないものでした。国としてどう会議行動をするかは二人の話し合いですんなり決まり、リーダーは狙わず中国やロシアの近接国との関係を重視すること、自国の核軍縮には断固反対し核保有を国際的に認められること、この二つを柱とすることにしました。

そして会議当日は実際に見てもらった通りで、グループに属さずそれでいて自国に有益な文書を残したり、スピーチでも強めの姿勢をとることによって注目を集めたりと北朝鮮らしい行動ができましたし、逆にアメリカを除く仮想敵国との友好的な会話や評価していただいた丁寧な交渉の積み重ねなどの北朝鮮らしくない行動もありました。僕らは完全分業でお互い動いていたのですが、最後まで事前に決めた二つの柱を守って行動できて議場に大きな影響力を持つことができたのがよかったと振り返って感じています。

今回の会議は全国各地のいろんなところの学校から参加者がいて、それぞれとの交流はとても楽しいものでしたし、11 月にある全国高校模擬国連大会への準備としても有意義なものでした。来年から受験生ということで模擬国連ができるのもあとわずかですがこの会議での経験を励みに頑張りたいとおもいます。

最後にこの会議の設計に携わっていただいた実行委員会のみなさんと各先生方に感謝して報告書を終えたいと思います。ありがとうございました。

B 議場

【講評】　　**フロント・アドミニセクション　梶谷　菜々美（渋谷教育学園渋谷高等学校）**

今回の会議は初心者と経験者の差がある状態で始まっていました。会議直後からグループ形成を始める大使がいる一方、模擬国連が初めてでルールに戸惑う大使もいました。それにもかかわらず、全ての大使が積極的に交渉に参加していたのはとてもよかったです。スピーチを上手に使っている大使が多くいたことも印象的でした。スピーチを聞く姿勢や、移譲など、スピーチの役割や重要性に気付かされた場面も多々あったと思います。動議も多く上がっていました。ただ、グループの輪の中心にいる人だけが交渉し、その外側にいる人は状況を把握できていない、という場面がいくつかのグループで見られました。同時に、強引な交渉がされている場面もありました。初心者が多くいることを考え、その場のまとめ役となっていた人がもう少し配慮できていれば、全体的により良かったと思います。

他にも、フロントも含めて、関東と関西のルールの違いなど戸惑うこともありました。ですが、その経験も全国から集まった大使たちで模擬国連をするということで得られた貴重なものだったと思います。

最後に、フロント側のミスでトラブルが発生した際も受け入れてくださって本当にありがとうございました。大使の皆さんが全力で会議に向き合っていたおかげで会議を作り上げることができたのだと思います。私自身、会議の運営に関わらせていただくのは初めてだったので不安な点もありましたが、参加者の皆さんのおかげで無事終えることができました。この二日間、たくさんのことを学ばせていただきました。あっという間でした。本当にありがとうございました。

【賞受賞者のコメント】　　**最優秀賞　イギリス大使 西大和学園高等学校２年仙頭 颯馬・山上 陽**

第１回高校教育模擬国連大会 B 議場で英国大使を務めた仙頭です。僕の学校では模擬国連をクラブ活動として行っています。高校一年から始めた模擬国連もこの大会で 20 回目の会議となっていました。ですが、こんなに大勢の全国の高校生と会議をしたのは初めてでした。僕がこの大会に出てよかったと言えることが主に２つあります。

まず１つ目は、自分の力量が全国のもぎこっかーと渡り合えるものであることを知ることができたことです。校内会議や、地域での合同会議では測れなかった自分の実力を知ることができました。そして２つ目は、全国のもぎこっかー達と出会えたことです。特に今まで一緒に会議をしたことがあまりなかった関東のもぎこっかーとの出会いは貴重なものとなり、地域による模擬国連の違いなどの発見にも繋がりました。

会議のことについてはペアが書いてくれるので、僕の感想は以上です。

みなさんこんにちは、同じく B 議場で、イギリス大使の片割れとして出場させていただいた山上です。まずこのような機会を用意してくださった運営の皆様に心より感謝申し上げます。

この第１回教育模擬国連大会ですが、二日間、議場でたくさんの経験を得られたと思います。
議論が行われた二日間、大変なことが幾つもありました。リーダーを他の国に取られたり、リサーチ範囲外の情報が交錯したりと、なかなか思い通りに行かず、イライラしたり焦ったりすることもありました。しかし、ペアの仙頭くんが気持ちを落ち着かせてくれたことで、自身を客観的にみて今何をするべきか、どうすれば自国、世界、議場の為になれるのかということを考えさせるきっかけになりました。

１ブロックのサブリーダーとして、リーダーでは把握しきれないブロック全体の雰囲気や細かな時間のマネジメント能力を最大限に活用できたこと、そしてペアとの細かな意思疎通が私たちが今回最優秀賞を取れた要因ではなかったのだろうかと思います。

今回の大会はとても楽しく、実りあるものだったと感じているので、これを読んでいる皆様も次回以降、この大会に参加して模擬国連の楽しさを実感してくだされば幸いです。

▲ B 議場集合写真

優秀賞　ミャンマー大使　市川高等学校１年　上田　彩夏

今回の模擬国連会議は５月の練習会議に次いで２回目だった。５月の会議で私は全く動けず、周りの状況についていくだけで精一杯だった。さらに「初心者だから」という言葉が常に頭の片隅にあり、自分に甘かったと思う。ところが、会議の反省をしてから私の模擬国連に対する気持ちは一転した。「初心者だから」という曖昧な気持ちから、「初心者でも」頑張ろうという気持ちになり、この大会で挽回しようとペアの２人と決めた。

模擬国連本番に大使がどのような行動をすることができるか。それを決めるのはリサーチだと私は思った。５月の練習会議ではリサーチ不足のせいで他の大使からの質問に答えられず、苦い思いをした。その経験から、私達はリサーチを念入りに行った。リサーチは時間と手間がかかるし、頭も疲れてしまうけれど、当日では本当に役に立った。

そして何よりも、たとえこれが「模擬」でもミャンマー大使として、誇りと責任をもって慎重に行動することを大事にした。

この大会で、私は " 初心者 " という言葉に惑わされずに全力で取り組むことの大切さと、仲間と力を合わせる喜びや楽しさを実感することが出来た。模擬国連の存在を教えてくれた友達や参加する機会を与えて下さった方々に感謝したい。そして、これからも様々な模擬国連の練習会や大会に参加していきたいと思う。

市川高等学校１年　濱　綾里

私は学校の英語部に所属しており、第一回全国教育模擬国連大会には部活として参加させていただきました。
この大会の一週間前にも模擬国連の練習会があったため、リサーチなどが同時進行で大変でした。幸い、どちらの模擬国連でも担当国が同じだったため、調べやすかったです。しかし、二つの模擬国連ではそれぞれ別の人と参加したのですが、二つのペアを行き来したり、どちらにも中途半端なかたちでしか協力できなかったりと、どちらのペアにも迷惑をかけてしまいました。それでも、文句を言わずに私の分を補ってくれた両方のペアに感謝しています。リサーチをしていく中で、ミャンマーの今までの行動が矛盾しているように見えたこともあり「ミャンマーの本当の立場は何なのだろう？」と考えた末、結論にたどりつきました。国の立場を判断するにあたって、多くの情報を吟味することができてよかったと思います。しかし、リサーチが不十分だったところもあり、例えば、核兵器禁止条約について調べておらず、大会の数日前になって、核兵器禁止条約をふまえた政策になるように自分たちの政策を一部変えることになりました。もう少しはやく調べていればよかったと反省しております。また、私たちは配布する資料を作るのにも力を入れました。この大会の一週間前に参加した模擬国連の練習会では、準備不足で DR を提出できず悔しい思いをしました。その悔しい思いをこの模擬国連大会ではしたくなかったため、他の二人に「DR を作ろう、文章は多めに作っておこう。」と言いました。何とか完成させることができましたが、一人のメンバーに家で作ってもらったため、一人に負担がかかってしまったことに対し申し訳なく思います。NP においては「印象付ける」ための工夫をしました。私たちは、今回「印象付けること」にこだわりました。せっかく良い政策があっても、DR を準備しても、印象が薄ければ気づいてもらえず、グループの中心になれないからです。そこで、私たちは、ミャンマーの存在をアピー

ルするための作戦を立てました。しかし、それらはどれもできませんでした。それでも、気持ちを切り替えて、はじめのアンモデレートコーカスで議場の中央で三人で大声でミャンマーの存在をアピールし、集まってきた大使の方々に NP と、DR の原案を配り、自分たちの政策を発信することができました。気が付いたら多くの国の方々が私たちのグループにいました。ある程度国が集まったところで、私は、内政を他の二人に任せて、外政に行きました。しかし、新しい支持者を得られたわけではなく、外政の役目を果たせなくて悔しかったです。また、内政の二人と情報の共有が出来ず、他の国の大使に迷惑をかけたり、また、内政の忙しい二人に聞きに行ったりと、ペアにも迷惑をかけてしまいました。そこは私がこの大会で見つけた改善すべき点です。二日目はグループどうしでの交渉が中心でした。吸収されるグループのリーダー国として、コンバインをしたときに、自分たちのスポンサー国が不利益を被らないように考慮しながら交渉を進めました。私たちミャンマーだけで進めるのでなく、スポンサー国にも「コンバインをしたとしても、消してほしくない文章はあるか」などの意見を聞きました。その際、スポンサー国の大使の皆様が積極的に意見を出してくださったので、交渉がしやすかったです。ありがとうございました。そして、無事にコンバインができ、また、私たちミャンマーの国益、一日目のミャンマーの WP のグループの大体の国の国益を守ることができました。

今回の大会で、優秀賞をいただけたのは、ペアの二人のおかげです。ペアの二人には感謝しきれません。しかし、ペアの二人「だけ」のおかげではありません。会議の中で私たちミャンマーを助けてくださった多くの大使の方々のおかげでもあります。ありがとうございました。また、今回の大会で今までの失敗から改善させたこと、新たに挑戦したことが多くありました。ですが、今までの失敗を改善できていないこと、新たに見つかった改善すべきことも多くありました。優秀賞をいただいたから直さなくてもよい、ということはありません。改善すべき点はこれから改善していこうと思います。最後に、運営スタッフの皆様、参加された大使の皆様、ありがとうございました。

市川高等学校１年　湯浅　空

私が初めて模擬国連に参加したときのことを忘れることはありません。二日間の会議が終了したときの私は、ひたすら圧倒されていました。自分の国の意見さえも満足に言えず、自分の知らないところでどんどん話が進んで行く。周りはみな忙しそうにしていて、追いつこうにも誰にどう聞けばよいのかわからない。自分でも驚くほど何も出来ませんでした。そして閉会式のときに関先生がおっしゃった、「今回の会議行動を振り返ったときに、自分が担当した国へ、その国の大使として堂々と帰ることはできるか、自分に問うてみなさい」という言葉に、自分の無力さを痛感しました。

ただ、そのとき一つだけ明確に私の中にあったのは、模擬国連を続けたい、という意志でした。ひどく叩きのめされてもなお、私がこの模擬国連を続けたい、と心の底から思ったのは何故なのか。それは、模擬国連に数えきれないほどの魅力が詰まっているからだと思います。そのうちの一つが尊敬できる人々に出会うことが出来るということです。グループの中心にいる大使、自国の利益を守るということに集中して参加する大使、的確な指摘で存在感を発揮する大使など、それぞれのやり方で大使として立派に振る舞う周りの大使は、私にとって雲の上の存在であり、輝いて見えました。そんな人々に出会うことができたおかげで、私は志を持つことができました。彼らのようになりたい。この気持ちが私をいつも奮い立たせました。限られた時間の中で、仲間と一生懸命準備を進めました。

会議の前はいつも、気分が悪くなるほど緊張します。それを吹き飛ばしてくれたのは仲間の二人でした。アンモデに入った瞬間、二人の大きな声が議場に響き渡りました。私も負けじと声を出したとき、もう緊張に取りあっている暇はなくなりました。私たちの周りにはたくさんの大使が集まってきたのです。自分たちで集めたのに自分で驚いてしまいました。初めてグループの中心国となったのです。しかし、私が説明を続けるにつれてどんどんと人が少なくなっていきました。私は焦りに焦りました。私の説明の仕方が悪かったのか、単純に私たちの政策と合う国が少なかったのか、いろいろな憶測が脳内をぐるぐる回りました。それでも私たちの国についてきてくれた大使たちの支えによって、WP という形ではありましたが、議場全体で私たちのグループの意見を共有することができました。中心国として、そのグループ国の国益を守る責任の重さを強く感じました。こうして改めて、私が目標とする大使たちの偉大さを噛み締めました。

内政担当として目の前のことだけで精いっぱいだった私を、地道な交渉を重ねてスムーズなコンバイン交渉を進めてくれた外政担当、私と外政の間を取り持ってくれた仲間の二人には頭が上がりません。そして、まだまだ未熟な私た

ちを信じて最後までついてきてくれたWPのグループの大使をはじめとするB議場の大使の皆さん、この素晴らしい大会の運営に携わった方々には、感謝してもしきれません。目標へ着実に近づくべく、今回頂いた賞に甘んずることなく、これからも仲間とともに益々精進して参ります。本当にありがとうございました。

優秀賞　インド大使 西大和学園高等学校２年　中島　啓・大橋　莉久

第１回全国高校教育模擬国連大会で優秀賞を受賞させていただいた中島啓と大橋莉久です。今回の会議は議題が核軍縮という各国でスタンスの違いがはっきりとしている議題でしかも担当国が核保有国でNPT非加盟国でもあるインドというスタンスが多くの国と異なる国だったので、グルーピングが非常に難しかったです。なので、事前準備では政策立案だけでなくグルーピングを考えることにも時間を多く充てました。その結果、グルーピングに関しては自分たちの想定とは少し違った結果になったもののスタンスが比較的似ているパキスタンやイスラエルを中心とした中東、南アジアの諸国と組むことで上手くいきました。また、今回の会議当日に一番苦労したことはアメンドメントを提出する際に他のグループと１日目に提出したDRをコンバインすることで、最初DRのコンバインを考えていたグループとの交渉が決裂してしまったので、急遽別のグループとDRをコンバインすることにしました。DRのコンバインにかけられる時間が非常に短かったので、グループ内でコンセンサスを取ってアメンドメントを提出するのにアメンドメントの提出期限ギリギリまでかかりました。その結果、もう１方のアメンドメントを提出したグループとのコンセンサスを取ることが出来なかったので、投票で自分たちの提出したアメンドメントが通るのがギリギリになってしまいました。他国とのコンセンサスをこれからの会議ではもっと取ることが出来るようになればいいなと思っています。

今回の会議では本当に貴重な経験と思い出を作ることが出来ました。ありがとうございました。

実行委員特別賞　フィジー大使 金沢大学附属高等学校１年　新本　莉子・片山　鼓乃美

初めに、今回の大会で実行委員特別賞を受賞させて頂けたことに感謝申しあげます。
本校ではSGHの活動を積極的に行っており、その活動の一環として全国で行われている様々な大会の紹介を聞く機会があり、その際に本大会に興味を持ったので参加させて頂くことにしました。

PPP作成では限られた時間の中で担当国の外交を一つずつ調査し、本番に向けて念入りに情報収集をしました。本校には模擬国連部が存在しないため、リサーチの準備段階から大会でのスピーチ、DRの投票まで、そして大会の雰囲気などすべてが初めての、貴重な経験となりました。実際に大会へ出場して、他校からの大使の議題に対する豊富な知識量とそれぞれの多国間交渉の仕方には非常に衝撃を受けました。本大会に向けて事前に交渉で役立つようにとスケッチブックにまとめてきている大使や、他の大使へ配布するためのプリントを作成して自国の説明の理解を促すようにしていた大使を見て、彼らの準備の用意周到に圧倒されました。

一日目に行われた交流会では、模擬国連の話題に限らず、自校と県外の高校との相違点、個性ある部活や、個人で頑張っていることなどについて一時間足らずでしたが、大いに話すことができました。大会に至るまで抱いていた不安や緊張がほぐれ、それまで会議中の大使というスタンスでの緊張感ある話から、同級生としての親近感のある楽しい話で盛り上がることができ、地元石川県では味わえない新鮮さを実感することができました。
会議が終了した後は、会場のホームで他校の大使と会議が無事成功した喜びとお互い協力してくれたことへの感謝の気持をかみしめ合うとともに、別れを惜しみました。

本大会で良い結果を出せたことの自信を胸に、さらにこれからも積極的な姿勢で何事にも挑戦していきます。

この大会は初心者向けの大会なので、実行委員の方々が議事進行について日本語で説明してくれます。だから模擬国連についてあまり知らない人や英語力に自信のない人でも誰でも気軽に参加できます。私たちの学校も模擬国連部や英語部がないためあまり模擬国連に関する知識はありませんでしたが、参加することができました。そしてこの大会を通して模擬国連についていろいろなことを知ることができ、より詳しくなれたと思っています。
またこの大会では交流会というものがあります。会議中の張りつめた空気とは全く違い、とてもリラックスした雰囲気でいろんな地域に住む中高生と交流ができ、楽しい時間を過ごすことができます。この大会に参加した２日間、とても有意義な時間を過ごすことができました。

模擬国連に関する知識がないというだけで参加をためらう必要はありません。特に私たちのような模擬国連部がな

い学校からも是非参加してほしいと思います。

C 議場

【講評】 **フロント・アドミニセクション　藤森　日彩 (頌栄女子学院高等学校)**

まず、初心者、経験者を問わず、DR（決議案）、最終的にはアメンドメントを作るという目標に向かって時間がない中一生懸命に交渉し、自国の利益と他国の利益をどのように両立させるかを考えていた大使の皆さんの行動はとても素晴らしかったです。また、初心者会議にも関わらず、motion や point を積極的に出すことができていたのは良かったと思います。

しかし、やはり初心者と経験者の差を感じる面もありました。例えば DR を作るためにグループになって交渉していた時、初心者の大使は比較的輪の外側にいて、皆が DR の内容をきちんと把握できていたかどうかが心配でした。このような差を少しでも埋めるためにも、来年は会議前に勉強会や説明会などを可能であれば開催するのが良いと思いました。一方で、初心者でもグループの中心になって他のグループとの交渉に励めていた大使の方も見受けられました。

会議中の大使の皆さんの行動についてですが、スピーチ中に話をしている大使やアンモデ中に床に座っている大使が多く見られました。このような行動は大使としてふさわしいとは言えないので、会議中にも注意しましたが今後は慎んでほしいです。

この会議での経験が皆さんが大使として成長するきっかけとなっていたら嬉しいです。

【賞受賞者のコメント】 **最優秀賞　北朝鮮大使　　渋谷教育学園幕張高等学校 1 年　松下 哲也**

この度は、第 1 回全国高校教育模擬国連大会において最優秀賞をいただきありがとうございました。高校生フロント・実行委員の方々、諸先生方、そしてユネスコ・アジア文化センターの事務局の皆さまに深く感謝申し上げます。

大会に参加することを決め、国割りを初めて見たときの驚きは今も忘れられません。議題が核軍縮で、担当国が北朝鮮。今までの会議経験の中でも、一度も味わったことのない不安感が頭の中をよぎりました。そして、リサーチを始めても、その不安感が薄れるどころか、どんどん増していくばかりでした。

日本に住んでいる高校生として、北朝鮮の立場を完全に理解することは非常に難しいものでした。北朝鮮について公開されている情報が今までの担当国と比べても圧倒的に乏しく、やっとのことで見つけられたデータの行間を読みながらペアと政策を考えるしかなかったのです。また、夏休みに入ってからも、北朝鮮についての様々な報道をかき集め、政府の言動からその本当の意図を探るようにしていました。

中でも一番悩まされたのは、会議前日に石炭などの輸出禁止の経済制裁が安全保障理事会において全会一致で採択されたことでした。この決議は、言い換えれば、国際社会から名指しで非難されていることと同じことですから、北朝鮮の大使としてさらに難しい局面に立たされることになります。こうして、当日の朝まで情報収集をペアで協力しながら進め、ついに会議に挑む時が来ました。

しかし初日の会議行動は、予想以上に厳しいものでした。最初のスピーチにおいてどの国も北朝鮮への非難を匂わせる発言をしていました。グループ形成の時も北朝鮮という国名を聞いただけで話を聞いてもくれない大使もいました。なんとか初日のワーキングペーパー (決議案の草案) を提出できましたが、スポンサー国 (賛同国) は 4 か国だけでした。しかし、このワーキングペーパーこそが北朝鮮の政策を国際社会に打ち出すきっかけになったのだと思います。

２日目は、初日の反省を踏まえ、自分たちのグループからほかのグループへと交渉を粘り強く進めました。初日にワーキングペーパーを提出できたことは２日目になってから効力を発揮していきました。このときに改めて感じたのは、スポンサー国の強さです。スポンサー国の大使たちが、なんとか今までの状況から一歩でも前進させようと、率先して核保有国（いわゆる常任理事国）に交渉を持ち掛けてくれました。その結果、

北朝鮮の主張に一定の理解を示す国が増え、決議案の作成まで至ることができました。決議案の内容を何度も確認し、一言一句までこだわりぬきましたが、完全なる同意には至らず、結局は惜しくもワーキングペーパーの形での提出となってしまいました。高校生であっても、国際連合という場は甘んじられることはありません。この会議結果もまた、北朝鮮が立たされている難しい情勢を投影しているように感じました。

模擬国連はたしかに高校生が現実の国際連合をただ模しているだけなのかもしれません。しかし、私は今回の会議で北朝鮮を担当できたことを誇りに思います。北朝鮮の大使になりきり、議場の大使に精一杯自分の国の主張を伝え、最後まで粘り強く交渉を続けました。何よりも、普段とは全く異なる立場から物事を考える良い経験となりました。そして、そのような経験ができる模擬国連と、それを共有できた“モギコッカ―”の皆さんがますます好きになりました。

このような貴重な経験をさせていただき、改めて実行委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

渋谷教育学園幕張高等学校１年　松下 智紀

皆さん、模擬国連を楽しんでいますか？

私は模擬国連を始めて４年目になりますが、今は参加するどの会議においても楽しむことを目指しています。言い換えれば、私にとって楽しかった会議は上手く行った会議です。そして今回の第１回全国高校教育模擬国連大会は今までの会議の中で一番楽しむことが出来ました。そのことが最優秀賞受賞につながったと感じています。

しかし、会議を楽しむ、と言われても良く分からない方がいらっしゃるかもしれません。実際、私も模擬国連を始めた当初はある程度リサーチをし、周りに迷惑をかけないよう会議をこなしていくだけで精一杯でした。その一方で、会議を楽しんでいる人はいつも元気で、皆の前で輝いていました。そこで、自分がどういう時に、会議が楽しい、と感じるのか、考えてみました。結果、私が楽しいと感じる会議は、模擬ではあるものの、自分の行動が世界を変えた、と実感できる会議だと気が付きました。

会議によってこのことを実感する瞬間は違います。例えば、自分の担当する国の政策を世界にアピールできた時や、国際社会をより良い方向に動かすためのコンセンサス（全会一致）が取れた時など様々です。どの会議もこういう瞬間ができるように臨むようになりました。

今回の大会前はこれまで実生活では全く理解できなかった北朝鮮の立場を、なぜ彼らはこのような行動を取るのかを考えるところからスタートしました。そのため国内のみではなく海外も含めて、北朝鮮についてのニュースや記事を見て、手に入る限りの情報を集めてリサーチを進め、“北朝鮮大使”になりきろうとしました。また、会議本番でもペアと綿密に話し合い、本物の北朝鮮大使の行動を想像しながら動くことを常に意識しました。

その中で自分たちの主張を周りに聞いてもらい、さらにそれをすべてではないものの、納得し共有してもらうことができたと実感できた瞬間がありました。その瞬間とは、北朝鮮大使として、五大国や核を保有する国を含めた多数の国と共に文書を出すことが出来た時です。安堵と共に、楽しい、と感じました。このようにして、私は“核軍縮の会議で北朝鮮大使”という注目される役割を楽しむことが出来ました。

この「楽しい」というのはあくまでも私の個人的な感覚です。会議は楽しんだ方が良いとは思いますが、会議の楽しみ方は人によって全然違います。是非、自分なりの会議の楽しみ方を見つけてみて下さい。

補足ですが、最近自分でも気を付けているのは、楽しむことと自己中心的になることは違うということです。自分も周りも楽しめることこそが理想だと思います。

最後に、第１回全国高校教育模擬国連大会への参加の機会を与えていただいた事務局の方々、先生方、実行委員会、そして参加された全ての大使の皆さんに厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

▲C 議場集合写真

優秀賞　オーストリア大使　浅野高等学校１年　髙田　陽一郎

ペア間のチームワーク。それは模擬国連において最も重要な要素の一つであると思います。私は中３からずっと模擬国連の練習会に参加していますが、賞を取るのは今回が初めてでした。成功した最大の理由は、ペアです。私は新しいこの大会を４月に初めて知ってから、初めて水口先輩というペアと出会い、出会った矢先に突然組むことになりました。なぜそうなったかといえば、去年全日から世界大会に出場された小塚先輩宗武先輩ペアに勧められたからです。4 月の時点で先輩のことは全く知らず、その後も AJEMUN まで一度も一緒に組んで練習する、といったこともありませんでした。しかし水口先輩は、今まで組んできたいろいろな人とは違い、1 日 10 時間以上リサーチをするほどとても情熱的で自分もやる気が出ました。そのおかげで当日の会議行動を綿密に立てることができ、賞を取ることもできたのだと思います。ペアには本当に感謝しています。もしこんな意味の分からない文章を読んでくれている物好きなもぎこっかーがいらっしゃれば、私は声を大にして「ペア選びに時間をかけよう！友達だから、などの安易な気持ちでペアを選ぶべきではない！」と言いたい。ちなみに僕は情熱的すぎる水口先輩が今でも苦手です（笑）

また、チームワークに加えて運もこの会議では自分に味方したのではないか、と思います。核軍縮という議題において核兵器禁止条約の立役者であるオーストリアはスタンスがはっきりしていてとてもやりやすかったし、同じ DR グループにいた国もずっと自分たちについてきてくれたと思う。自分たちのペアはホワイトボードを使いながら２人でダブル内政をやり、外交はほかの国に任せる、といった手法が奇跡的に型にはまったというのも事実だと思います。今後全日やその他の大きな会議で活躍するために、自分たち２人がより改善しなければいけないこととして、今まで以上にペア間のチームワークをよくしていくことと、少しずつ外交に手を出していくことがあると思います。ペアはモデで発言することが得意で、会議全体でも目立つことができるという自分にはないものをもっていると思うので２人で分担して今まで以上にスムーズに動けるようにしていきたいです。

最後になりますが、第１回全国教育模擬国連大会を運営してくださった実行委員の皆様、教員の皆様、ACCU の職員の方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

浅野高等学校２年　水口　幸生

私が模擬国連を始めたのは去年の１２月でした。模擬国連は、公式の大会以外は練習会という形で活動が行われています。その練習会に友達から誘われて試しに出てみたのです。そこで、異なった意見を持った各国大使が議論を交わしあうことに楽しさを感じ、模擬国連を続けてみようと思いました。その後８月の第１回全国高校教育模擬国連大会までに３回練習会に出たのですが、その中でリーダーシップなど、将来社会人になっても役立ちそうなスキルが身についてきていることが実感でき、とてもやりがいを感じていました。

さて、初めての公式大会を楽しみにしていた私は、リサーチに本気で取り組みました。担当国は核軍縮に積極的なオーストリアだったので、資料がたくさん見つかり、スタンスをしっかり固めることができました。後は、核軍縮関

連の条約などを片っ端から読んでいったのですが、これは今から思えば少し気合が入りすぎていて、オーバーワークだったのかもしれません。ですが、リサーチをちゃんとやったことで、会議本番において、国益に添うような、そして質の高い、決議案を書けたと思います。

会議本番。

1日目。まず私は核軍縮に積極的な国22か国を集め、グループをつくり、意見をまとめました。人数が40人くらいと多かったので、グループのメンバー全員が、しっかり意見を述べることができ、納得のいく決議案をつくるのが大変で、その点に特に気を配って会議をしました。全体での討論の場では、常に手を挙げて発言する機会をうかがうことで、自分のグループの主張を全体に理解してもらい、グループの立場が不利にならないようにしました。また、グループとしての成功、会議の成功のために何が必要なのかを常に考えて発言するように気を付けました。

2日目。他のグループと交渉して意見の共有、調整を行い、議場全体での合意形成を目指して行動しました。ここでは意見をすり合わせることを目的に、しかし妥協しすぎないようにすることが求められ、交渉術が試されます。この交渉で私たちのグループは人数を増やし、また他のグループの大使にも私たちのグループの意見に賛同してもらうことに成功しました。最終的に私たちの決議案は賛成が過半数を超えたため可決され、国際社会に公表されることになったのです。

私は、この会議を通じていろいろなことを学び、成長できたと感じました。他の大使に刺激を受け、とてもいい経験になりました。正直最優秀賞を逃したことは少し悔しかったのですが、充実した2日間だったと思いますし、この大会に参加できて本当に良かったです。

優秀賞　フランス大使　浅野高等学校1年　増山　龍星・堀江　悠希

幾つか練習会に参加させていただき思った事は、参加者の英語力で議場の流れが左右されるということ。特に英語慣れしている生徒としていない生徒が混在している会議においては、よくDRの可決まで行かないことが多い。(主観)模擬国連の目的は何なのか考えたときにこの英語力の差は大きな障害となる。普段はオブラートに包まれて話すようなことなどを真っ直ぐ核心を突いて話さなければならないのに上手くコミュニケーションを取れないのは模擬国連実施の意義を失うことになりかねない。

そのような中でこの教育模擬国連は大きな意味を持っていたといえる。公式言語も日本語とすることで参加者本人の伝えたいことがダイレクトに伝わるだけでなく、グループリーダーなどはより一層言葉に気を付けて説明や交渉をしなければならないし、纏める際も細心の注意を払う必要が、公式言語が英語だった時以上に必要になる。

今回DR共同提出国となった私は特にまとめ方のところに気を使ったように思う。今までの英語を使った練習会ではやはり皆意味が分からないところがあり、取り敢えず慣例通りに進める、細かいところは後でいいみたいな風潮があったのは否めない。公式言語が日本語になることでそれぞれ自分勝手にもっと主張してくる、これぞ国連みたいな感じで最後はもう強引に纏めてしまった。自分自身これは反省すべき点だとはもちろん認識しているが、最近ニュースであるような国連の実態はまさにこんな感じなのではないかと思っている。

この大会のもう一つの魅力として交流会がある。いろんな地域から来ている参加者と短い時間ではあったが新鮮な情報のやり取りが出来たと思う。特に男子校の私にとっては女子と話す久し振りの機会となり大会以上に緊張してしまった所もある。今回はランダムで組まれたチームでの話し合いだったが、もし来年もあるのであれば会場ごとに軽食などと共に楽しみたいと妄想をふくらませております。

最後に一言。上記のように一応堅苦しい感じで話してきましたが、模擬国連参加者は本当にフレンドリーな方が多く、いつも明るい雰囲気ではっちゃけながら皆楽しんでいます。少しでも興味があれば来年是非参加してみませんか？スタッフの方々が必要な知識を丁寧に教えてくれます。自分は来年スタッフで出ようか大使として出ようか迷っていますが参加することは内心決定していますのでもし第二回があれば是非お会いしましょう！

優秀賞　中国大使　逗子開成高等学校2年　宮沢　智仁

僕は教育模擬国連の話を聞いた時、全国の高校生が集まり、国数も多くて大規模の会議になるという点にひかれて参加することを決めました。

国割が発表され、中国を担当するという事が分かった時はとても緊張しました。自分達の肩には10億人を超える

国民の命がかかっているという責任や、常任理事国の一つという国連の中でも重要な立場における発言の重さに何度も押しつぶされそうになりましたが、冷静に担当国の現状を把握することに徹しました。

今回の「核軍縮」という議題においては、中国はNPT（核不拡散条約）で公認されている核保有国の一つです。そこで「核保有国として中国はどのような行動をしてきたのか」ということを中心にリサーチしました。また、近くにはロシアや北朝鮮などの核保有及び核保有を疑われている国がいるので、中国がこれらの国と今までどのように接してきたのかを調べました。中国は協力できそうな国が少なく、どのように行動するかがとても難しかったので、「何を政策の軸にするか」や「会議当日にどのような行動をするか」などをペアと綿密に話し合い、当日孤立するのを何とかして防ごうとしました。

会議一日目は、まず北朝鮮と行動をともにしていましたが、中国のスタンスとはずれていたので、イラク率いる中東非核兵器地帯を作ろうというグループに移りました。ペアはフランス等の先進国を中心としたグループで作業をしていたので、早くコンバインしようと考えていました。しかしそのグループとの連携がうまく取れず、中国は二つのグループで板挟みのような状況になってしまいました。そこで一日目は中東と先進国で別々にDRを出し、二日目でコンバインしようと考えていました。

二日目は先進国のグループに北朝鮮が参加し、「準非核保有国」という新しい考え方を提案しました。自分はペアが交渉を続けている先進国グループと交渉を始めたかったのですが、ペアとの情報共有が上手くいかずに先進国グループが不透明になってしまい、中東グループ内でも北朝鮮に嫌悪感を示す国が多く、強引に交渉を始めれば中東グループが分裂して別のグループに国が移ってしまう可能性もあったので、動けなくなってしまいました。何もできないもどかしさから「俺はなんでここにいるんだろう」と議場から逃げ出したくなる時もありました。ですがあるメンバー国の大使から「公式討議で自分達の代わりに何か喋ってもらえますか？」と提案された時、自分はリーダーとして頼りにされているということを再認識しました。

今回は、リーダーとして困難な状況に置かれたときの対処の仕方や、ペアとの連携の大切さを改めて考えさせられる会議でした。結果的に優秀大使として呼ばれたときはとても嬉しかったですが、まだまだ反省点は多いので、しっかりとレビューして次の会議に向けて精進していきたいと思っています。

逗子開成高等学校２年　吉田　直樹

今回、記念すべき第一回全国教育模擬国連に参加させていただき、優秀賞までいただけたことはとても光栄です。今会議は日本語ベースの全国大会という特殊な会議で、文言などの交渉もスムーズに進み、スピーチなどもしやすかったのですが、自身の課題もたくさん見つかりました。

良かった点は２日目の午前、核五大国やイスラエル、インドなどのNPTで核保有が認められていないのに保持している国々、さらには最近活動を活発化させている北朝鮮も含めたグループを作れたことです。特に北朝鮮は現在安全保障理事会から厳しい勧告と制裁措置を受けている国ですが、設定議場であった国連総会第１委員会で、北朝鮮と交渉し、朝鮮半島での安全保障問題を前進させ、世界全体としても核軍縮の方向に舵を切るような内容のDRを作りかけることができたことはこの議場の期待される方向性にも沿っており、一定の成功だったと考えています。途中、ヨーロッパのグループと北朝鮮のグループと三つ巴のコンバインになり、焦った場面もありましたが、早くからコンバイン交渉を進めていたことで多少の混乱はあったもののなんとかコンバインにこぎつけることができました。
悪かった点はその後、DRの文言が既定の枚数に収まりきらず、アメンドメントの提出をすることができなかった点です。三つ巴のコンバインをしたこともあり、文言が増えすぎてしまい、DRが文言のコピー＆ペーストになって、内容も重複しているものが多数ある雑なものになってしまったことが原因です。提出ができなかったことで、自国の国益を損なっただけでなく、DRに賛同してくださったスポンサーの国々の利益も損なってしまったことを深くお詫び申し上げます。

長々と述べさせていただいたことの総括をさせていただくと、今回の会議は日本語ベースのおかげもあり、モデレートコーカスやスピーチなどの時間を以前よりかは有効活用でき、文言の交渉の内容もより深いレベルで行えたと考えています。しかし、結局文書提出ができず、出せたとしても内容は粗雑で国際社会に向けた威厳のあるはずの決議といえるものではなかったため、国益・国際益の両方の観点から大使として立派な会議行動は全くとれませんでした。この苦い経験をしっかりと自分の糧にし、これからも模擬国連活動に精力的に取り組んでいきたいと思います。

７月には核禁止条約が採択され、最近は北朝鮮の核開発もよりいっそう進んでおり、核をめぐる問題は今私たちが考えなければいけない問題の１つだと思います。それを全国の高校生たちと話し合い、真剣に考えられたこの２日間の大会はとても有意義なものでした。最後になりますが、この素晴らしい大会を企画してくださった先生の皆さま、運営をしてくださった生徒の方々、そして一緒に会議に参加した大使の方々、その他この大会を作るために尽力してくださった多くの方々に感謝申し上げたいと思います。

D 議場

【講評】 **フロント・アドミニセクション　山田　優衣 (実践女子学園高等学校)**

このＤ議場はもともと計画されておらず、高校生による高校生のための会議だということは顧問の先生が言っていたことなのでわかっていますが、私は来年も中学生の議場を作ってほしいと思っています。今回Ｄ議場に参加していただいた大使の皆様の中で学校の取り組みとして普段から練習会を行っている大使の方がいらっしゃると思います。それでも高校生に呑まれてしまう、圧倒されて何も言えない。このような体験をしている方がいるのではないでしょうか。今回の会議が中学生だけだったからこそ自分がやってみたいこと、理想としていることを追求できたのではないでしょうか。実際にフロントから見ていて大使の目がキラキラしており、時に悩むことがあっても立ちはだかる壁にきちんと向き合うことが出来ていました。DR のチェックを行ない、２日目の朝にフォーマットの訂正をしてほしいと大使に依頼したとき、“今回の会議が初めてなので他にも間違えているかもしれないです”と言われたとき驚きました。初めての会議でグループをまとめあげ、決議案を書くということを実行するのには強い意志があったのだと思います。大使の皆さんの志は高く、アメンドの提出が終わり時間が余っていた時、“レビューやっていてもいいですか？”と聞かれ、本当にこの会議を実のある物にしていこうという意思が伝わってきました。最後に“この会議でよかったです”とある大使に言われたとき、本当に安心しました。初の会議で色々と不手際があったにも関わらずその様な事を言ってくださり、とてもうれしかったです。Ｄ議場に参加したみなさん、本当に２日間お疲れさまでした。この経験を忘れずに今後の模擬国連に打ち込んでいっていただきたいと思います。

【賞受賞者のコメント】 **最優秀賞　アメリカ大使　浅野中学校３年　　中山 大河**

大使の皆さんならびに運営をして下さった全先輩方と顧問の先生方、本当にありがとうございました。次に繋がる非常に貴重な体験ができ、感謝しております。模擬国連顧問の宮坂先生からこの大会のことを聞き、僕自身初めての全国大会ということで参加させていただきました。

＜準備＞

大会に挑むにあたり、まず PPP(Potision & Policy Paper) を埋めることから始めました。今回の PPP はかなり埋めごたえがあり（?)、時間をかけたものの、議題に関しての理解をより深めることができました。NPT（核兵器の不拡散に関する条約）の改正を第一政策としていたので特に NPT について具体的に調べました。国集めも予定していたため、スケッチブックを買って政策などを書いたり、WP を作成したりしました。会議行動は担当を内政：中山、外交：西本に分担しました。僕は内政担当だったので内政を中心に書かせていただきたいと思います。

＜会議行動＞

１日目内政：国集めを円滑に進めるため、各国にメモを回しました。最初のアンモデで予定していた国はもちろん、アメリカのグループに入ると国益が守れない国まで来てしまい困惑しましたが、政策の発表を始めました。参加した各国に一枚ずつ付箋を配布し、アメリカの政策を説明している間に記入してもらい、スケッチブックに貼ってもらいました。スケッチブックをもとに各国にアンモデの円の中心に立って政策を発表してもらいました。付箋を使用した理由は、口頭の意見発表よりも確実性、信憑性が高く、グループの乗っ取りも防止できるからです。各国の意見発表終了後、スケッチブックを基に整理し、各国に賛否を聞き、賛成

のものを採用しました。また反対のものは各国で議論をしました。この作業を論点ごとに３回繰り返しました。文書化の手順は、アメリカの WP は賛成を得ていたので骨組みはアメリカの WP とし、新政策で各国が賛成したものは、各国文書化を依頼しました。その後、EU のグループとも合併し、政策の統合を行いました。しかし、グループ内のある国に編集を一任したところ、皆でまとめた DR でないものが提出されようとする手違いが発生したため、急遽皆でまとめた DR をそのまま付け加え合計 A4 7 枚になってしまいました。これはあるべき状態ではなく、反省しています。

2 日目内政：1 日目の夜に力作 7 枚 DR を要約しました。質疑応答後のアンモデで、1 日目に時間の関係上 DR に盛り込めなかった文言を追加し、各国と DR の最終調整を行いました。DR 完成後、ブラジルの非核保有国グループとのコンバイン交渉を開始しました。コンバインが成功し、すべての国を円の形にして最終の DR のすり合わせを行いました。北朝鮮抜きのアメンドメントになってしまったものの、無事提出ができました。最後のアンモデでレビュー会をして、無事アメンドメントは採択されました。レビュー会ではすべての大使の皆さんに発言する機会を与えられなかったこと猛省しております。大変申し訳ありませんでした。

＜今回の大会の良かった点＞

アメリカ大使：円の中心に立って表でリーダーとして話すほかにも、円の外側で、何を話しているかわからなくて会議参加意欲をなくしている大使にも積極的に参加させるように促すことができました。内政、外交に担当を分けたのは効果があり、改めてペアで模擬国連をやることの大切さに気が付きました。

会議全体：自国の政策をしっかりと持っていて、リーダー国にも物怖じせずに交渉ができていたと感じました。また、リサーチもしっかりとされていて、議長も言っていましたが、初級者会議とは思えないほど充実した会議でした。本当に助かりました。ありがとうございました。

＜今回の大会で改善すべき点＞

アメリカ大使：目の前の課題（特に時間）に執着しすぎて、後先のことを考える余裕がありませんでした。忠告をしてくださった大使の方、本当に申し訳ありませんでした。すべての大使が満足できるアメンドメントにならなかったと反省しています。また、リーダー国としてグループを引っ張ろうとしすぎて、トランプアメリカの国益にかなった政策・会議行動ができなかったと思い、改めて模擬国連の目的（国益は第一条件　国益＞リーダーシップ）を考えさせられました。そして、模擬国連の難しさに気づきました。

会議全体：僕が言えることではありませんが、時間の配分ができていなかった気がします（特に DR 提出前）。また、自国を含め国益が守れていない国がある気がしました。そのおかげでこちら側が進めやすくなってしまいました。

今回の会議を通じて、理想の大使とは何かを考えました。まだ答えは出ていませんが、今のところ理想の大使とは、国益を第一に考え、国民を意識して自分の発言・行動に責任を持てる大使だと考えています。これからも模擬国連を続けて答えを導き出したいと思います。皆さんも一度理想の大使について考えてみてください。

最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった方々、一緒に会議に参加した大使の皆さんにもう一度感謝申し上げます。ありがとうございました。

浅野中学校３年　西本 知貴

先月の大会では非常に貴重な経験ができました。参加された大使の皆様、ならびに運営をして下さった先輩方および顧問の先生方、ありがとうございました。

＜準備や会議行動＞

政策に関しては「核維持、軍縮するなら皆道連れ、NPT の枠組み強化」というもの、会議行動は「グループリーダー、しかし大幅譲歩」です。これはどちらも国益を完全に損なっています。なぜなら、トランプ氏の「核拡大」という意向を無視した政策である上に、グループ内の国を抜けさせないために自らの政策をさらに譲歩して

いる（段階的に削減するなど）からです。これはトランプ政権下のアメリカの方針とは全く異なります。
＜感想＞
　単刀直入に言ってしまうと、今回の模擬国連は今までで最も後悔しました。理由は「目的の見失い」です。その要因は二つあります。
　一つめは国益を損なったということ。国益がすべての（模擬）国連において、会議を仕切りたいという欲望とグループリーダーとしての責任ばかりに目が行ってしまって、本来推進すべき政策と違うものを打ち出してしまいました。これはグループリーダーになったことがある先輩方も一度は経験があるのではないでしょうか。本来の「国益を守る」という目的を見失っていました。
　二つ目は自分が機会を台無しにしたということ。グローバリゼーションが停滞し、保護主義が台頭する新時代の到来の象徴ともいえるトランプ氏率いるアメリカの出現。このタイムリーな時に、国際化の表象といえる国連において核軍縮という議題でトランプ - アメリカを担当することができたのは非常に幸運なことであり、これからの自由主義→保護主義のプロセスにおける「国際社会における保護主義の存在」というとても重要なことを学ぶ貴重な機会でした。ところが僕はこのチャンスを完全に捨て、甘えた政策・会議行動をとってしまいました。これは僕のなかでの模擬国連の目的である「国際社会を様々な議題・担当国を通して自分に繋げて理解する」ということと相反しており、大切なことを理解する好機を失ってしまいました。
　今回の大会は僕にとって６回目の模擬国連であり、時の経過とともにリーダー国になって賞をとりたいという欲望が生まれはじめていました。賞はインセンティブでしかないというのにこういう考えに至ってしまったことは今考えてみると恐ろしく、原点回帰の必要性を大きく感じています。一方で、ペアと内政・外交で分担したことや、スケッチブックやポストイットを用意したテクニックの面では過去の大会を活かした良い会議行動ができたと評価しています。
かなりネガティブなレビューで申し訳ないのですが、このことに気づくことができたのは今回の大会があってこそであり、今後に繋がる非常に重要なことを学ぶことができました。
　再度にはなりますが、ありがとうございました。

▲Ｄ議場集合写真

優秀賞　ノルウェー大使　麻布中学校３年　　梶村　健・佐治　亨哉

梶村は六月に入ってから学内の掲示板にてこの大会の存在を知り、佐治を誘って申し込んだ。元々梶村は模擬国連には興味があり、NY の世界大会で優秀賞を受賞された偉大な先輩たちに憧れ、高校に上がったら模擬国連に出ようと思っていた。そのため、中学生の間に出場の機会に恵まれたのは幸運であったと感じていた。一方佐治は梶村に誘われるまで、模擬国連という名前こそ知ってはいたが、それに対してあまり深い関心を抱いていなかった。しかし、誘われてから模擬国連について調べていく程に興味を掻き立てられる催しであった為に参加を決めた。

意気込んで参加を申し込んだわけだが、リサーチにはかなり苦労した。何より時間が無かったので、先ずは議題（核軍縮）やそれに関する用語の基礎知識の習得に徹した。国が決まった時、その国の基礎知識の足りなさに愕然として躍起になって調べたり、議題概説書も必死に読み込んだりした。

そして何より大きな問題だったのは、模擬国連とは何たるかを全く分かっていないことだった。うちの学校（麻布）には、模擬国連を扱う部活が存在しない。梶村は管弦楽部と音楽部、佐治はオセロ部と音楽部に所属している。このように、今回の会議は模擬国連初心者による完全なる個人戦であり、練習会議などもできないままに、ルールブックを読んで想像したり、ネットで動画を見たりすること位しか出来ず、会議のイメージが掴めないまま本番に突入したのであった。

そして迎えた当日であったが、正直な所、会議行動に関しては、完全にスタートダッシュに失敗した。というのも、グループ内で意見することもおろか、危うくどのグループにも入れない「会議難民」になるところであった。各国の大使の会議行動はどれも非常に上手く組み立てられており、各々の国益をしっかりと守るような立ち振舞いに感服してしまった。最初は右も左も分からずなかなか歯が立たなかった。そこから何とか影響力を盛り返し、DR の中心国になることができたのは大きな収穫だったと思う。

今回の一連の経験を通じて一番感じたのは、周りの大使たちから受けた刺激と、自分達の未熟さだ。現在、会議経験が未だに一回の模擬国連ビギナーである僕達と模擬国連との付き合いはこれからも続いていくと思う。しかし僕等には、コミュニケーション力も、英語力も、国際政治の基礎知識も、会議行動のスキルや交渉力、更には戦略の引き出しも足りていない。このような力を、これからの会議を渡り合えるよう更に身に付けていき、またこの会議に出場して存分に楽しみたいと思う。

優秀賞　ブラジル大使　浅野中学校３年　三浦　慶

中学の部でブラジル大使をやらせていただいた浅野中学校３年の三浦です。今回模擬国連に参加するのは２回目でした。この大会に参加しようと思ったのは、模擬国連に興味があり、また全国の中学生と一緒にできるのはとても貴重であり面白そうだと感じたからです。

模擬国連への準備では、割と計画的にペアと skype などを利用し協力して行うことができましたが、政策や DR の内容が薄すぎたなと会議が終わってから感じました。もっと深く濃く、またインターネットだけでなく本なども利用してリサーチをすべきだったと反省をしています。また政策のクリエイティブ性がもっとあればよかったかなとも思いました。ただ、国営は守れたかなと思っています。

当日の会議では、最初から他の国の大使の協力のおかげでグループを作ることができました。ですが経験のなさで、グループをまとめるのにとても苦労しました。他の国の大使の方の大使の意見を聞いて、グループのすべての国が納得する DR を作ることの難しさを実感しました。またすべての国の意見を DR に反映させることが出来なかったり、そもそも自分たちの意見を十分に理解してなかったり、タイムマネジメントがうまく出来なくて DR の提出がギリギリになったり、また２日目の最後のコンバインにおける情報をグループ内の国の大使の方とうまく共有出来なかったりと反省点が多かったです。さらにコンバイン交渉において、自分たちがコンバインすることしか考えておらず、自分たちの意見を DR に反映させることがほとんどできませんでした。グループの国の方々に申し訳なかったです。ただすべての大使に敬意を持って交渉したり、

話し合ったり、あいさつすることだけはできたと思います。
今回は前述したように模擬国連に２回目の参加だったので、多少リーダー的存在になることは出来ましたが、グループ内の国の方々にたくさん迷惑をかけてしまったり、自分たちの政策を優先してしまったりと反省点ばかりだったので、今回の反省点や経験を次からの模擬国連に生かせればいいなと思っています。最後に今回の模擬国連を運営してくださった先生方、実行委員の方、そして関わってくださった方々本当にありがとうございました！

優秀賞　イタリア大使　新潟明訓中学校３年　田中　このみ・高橋　あづ美

私たちは、イタリア大使として初めて模擬国連に参加した。新潟県という狭いコミュニティーでしか生活していなかったため、全国のハイレベルな学校が集う中で自分たちがどのくらい通用するのか興味があった。そして、中学生のうちから世界の重要な問題について討論することは自分たちの視野を広げることにもつながると思い、参加を決めた。

リサーチの段階では、事前に配布された議題概説書だけでなく、参考文献を何度も読み、理解を深めた。私たちはリサーチの際にするべき大切なことが２つあると考える。１つ目は、自国の情報だけでなく、他の参加国の情報もある程度調べておくことだ。そうすることにより他国の政策をおおよそ予測できるため、全体が合意してくれそうな政策を作ることができる。２つ目は、インプットだけでなく、アウトプットも行うことだ。私たちは、１つの議題に対して交互に１分間のスピーチをするという方法をとった。インプット・アウトプットを繰り返すことで本番でも用語がスムーズに出てくるようにした。

さて、大会本番の自分たちの様子について振り返りたい。１日目、会議開始と同時に大声を出し、主導権をとった。しかし、DR を作るためのスポンサーの数が足りず、結局、別の国のスポンサーになった。１日目の夜、自国の利益を最優先に考え、DR の修正したいところを挙げた。２日目、夜に考えたことを他国に言ったが聞いてもらえず、変更することができなかった。

私たちは知識の面では同等のレベルだったが、話術の面で足りなかったと思う。うまく言い包められてしまい、自分たちの主張がうまく通らないこともしばしばあった。知識があってもそれを伝えられなければ意味がないことを改めて感じた。また、私たちは大使の動きとして、グループ内の政策の調整役とグループ以外の国との交渉をする役に分かれた方がよいと考えた。なぜなら、より多くの国の政策を聞くことができるからだ。事実、上位層の大使は殆どその体制をとっていた。一方で、必要最低限の情報も知らず、会議に参加できていない大使がいるのが残念だった。担当国を背負っているということを忘れてはいけないと思う。
以上のような経験で私たちの考えや興味の幅は広がったと思う。また、全国の同じ学年の子と話すことはとても参考になったし、刺激を受けた。私たちは模擬国連に関して無知であったため、担当の先生に大変迷惑をかけてしまった。今回の受賞は自分たちだけの力ではなく、応援してくれた友達、両親、そして先生方に支えられてのものだった。お世話になった全ての方に感謝し、これからも様々なことに興味を持ち、自分自身を高めていきたい。

浅野中学校３年　柳澤　岳

僕はこの大会以前に校内､校外でそれぞれ一度ずつ模擬国連の練習会に参加したことがありました｡そして、この大会は３回目の模擬国連でした。今回は中学生だけの議場であり、また会議のほぼすべてを日本語で行うという初心者向けの会議だったので、経験者として、自分たちでグループを形成して DR を提出することを目標に準備してきました。

７月上旬にリサーチを始め、１週間前ごろから DR の作成の準備をしてきました。リサーチにおいては、担当国や世界全体が実際にどのような政策をとってきたのかに重点を置き、担当国の外務省のホームページや、国連決議、条約などを中心に調べました。そしてそれらをもとに自国のスタンスや政策を決めていきま

した。

ペアとの話し合いはSkypeで、用事のある時以外は毎晩行い、情報共有をしたり、政策や会議行動を練ったりしました。

初日、最初のアンモデで非核国のグループを作りました。まず自分たちが用意したDRを配って説明した後、各国に政策を聞き、それらを同じ論点ごとに学級会形式で話し合いました。しかし、自分たち自身がDRに対する理解が甘かったり時間の管理をしなかったりしたために、本質的な議論までいかず、またグループの政策がまとまりきらなかったので、DR提出直前のアンモデでは、十分に話し合えなかった政策をとりあえずDRに書いて提出するという、その場しのぎの行動をとってしまいました。また、DR提出時にもトラブルを起こしてしまい、グループ内の大使の皆さんを終始困惑させてしまった一日でした。

２日目は、まず前日にとりあえずDRに載せてしまった政策について話し合い、DRを作り直してからもう一方のグループと交渉を始めました。僕はここで、グループの政策を一つでも確実に決議にするためにコンバイン交渉を選びました。そして、グループ内の各国に残してほしい文言を聞いてDRのボトムラインを確かめた後、それらを相手グループのDRに追加する形で、交渉が成立しました。しかし、交渉を焦ってグループの政策を必要以上に削ってしまい、自国の用意した政策はほとんど反映させることができませんでした。

このように反省点ばかりであったので、僕は正直、賞を獲れるようなことは全くしていないと思っています。今回の反省を踏まえて、第２回大会では悔いなく受賞できるように練習を重ねていきたいと思っています。

実行委員特別賞　イラク大使　東京韓国学校中等部３年　李　熙周

昨年の夏休み、ニューヨークにある国連本部を訪問したことが契機となり、国際連合に興味を抱くようになりました。また、同じ韓国人である潘基文さんが第８代国連事務総長を務めたこともあり、国際連合には特別な思いがありました。

本大会については担任の先生から大会参加案内があったので、是非参加したいと思い、気の合う友人と一緒に参加申込をしました。私たちは初参加だったので、大会運営・参加方式などは大会ホームページとFacebookを確認しながら、入念に準備しました。担当国であったイラクについては、インターネットと関連書籍から情報を収集し、その資料を分析しながらPPP資料を作成しました。

核軍縮という大会テーマから、大会当日は核保有国と非保有国にグループが分かれると予測しました。中でも湾岸戦争までに核兵器を開発・保有していたイラクは、アメリカなどの多国籍軍に惨敗したことで、核兵器の完全廃棄を受け入れた経緯がありますので、非保有国のグループで核のない世界づくりを目指そうと思いました。そして、イラクは核兵器を廃棄したにもかかわらず、世界各国の核兵器への疑惑・懸念を完全に払拭できず、国連安保理の許可のない武力行使を受けたので、私たちは特定大国に依存しない世界平和を目指す必要があると思いました。その実現のために、国際連合は世界的により強い影響力と実効性を有する必要があると考え、世界各国とその考えを共有できるように交渉段階で積極的に主張・説得しました。その具体策として、CTBTに未だ批准していない国への迅速な批准交渉、IAEA査察の実効性の向上、核実験の全面的な禁止、核兵器の使用・威嚇に対する罰則規定を国際条約で設けることなどを提案しました。そして、私たちが提案した内容の一部はDRに採択されましたので、大変嬉しかったです。

ただ、一つ、北朝鮮大使を説得して非保有国のスポンサー国にさせようとした最大目標が達成できなかったのは心残りです。それは、北朝鮮に対して核放棄に伴うメリットを上手く提案できなかったからだと思います。多様な利益がぶつかる中、共通の利益を追求しながら、自国の利益も守ることの難しさを実感した大変貴重な経験でした。

東京韓国学校中等部３年　李　在東

イラク大使としての自覚と責任を持って行動しました。何よりもイラクの国益を最優先に考え、我々の主張が反映される決議案を国連会議に通過させることを使命として、他の国の大使と議論し交渉しました。この大会に参加した他の学校の生徒と議論をしながら、驚きと共に受けた刺激も大きかったです。彼らの豊富な知識とコミュニケーション能力に加え、この大会のために徹底的に準備したことを知って、刺激を受けました。

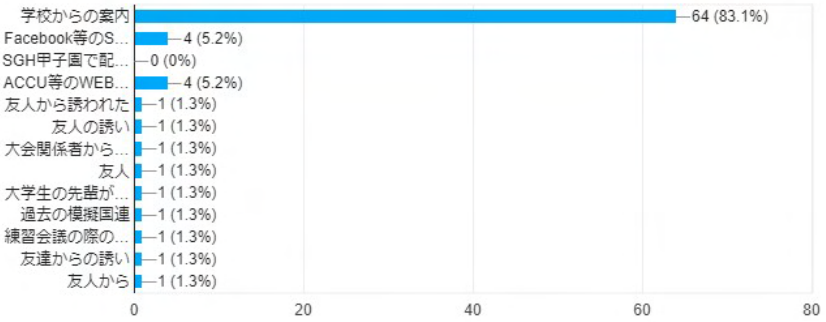
他の学校の生徒を見ながら悟ったことも多かったですが、私たちは自分たちが準備してきたことをもとに、最善を

尽くしました。イラクについて調査し、国益が保護されながらも、世界の核軍縮が実現される方法を真剣に考えました。私たちは NPT 条約について調査する中で、NPT 条約に違反した場合の具体的な罰則についての詳細が不明瞭であることを発見しました。これを整理して、正式に大会で発表した結果、意見が採用されました。他の国の大使と意見を共有し、説得する過程の中で各国大使の考えを聞くことができた点が嬉しかったです。そして、知識はもちろんの事、会話し、説得する技術も必要だと切実に感じました。多くの人々と一緒に核軍縮をテーマに意見を交わし、実際は関係のない国の大使の役割をしながら、国際社会を理解するための視野を広げることができました。今回、一緒に参加した日本の中学生の準備と発表力、交渉能力を見て、多くのことを学んだ大会でした。

参加者アンケート

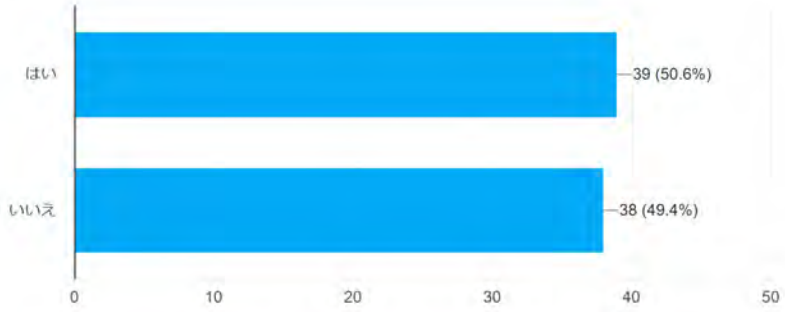
1.本大会をどのように知りましたか。

77 件の回答



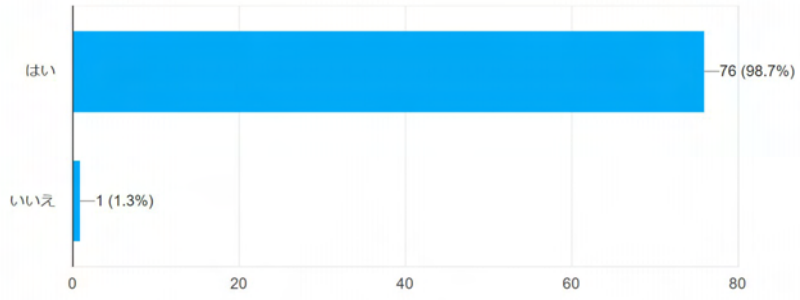
2.大会会場について改善すべき点があると思いますか。

77 件の回答



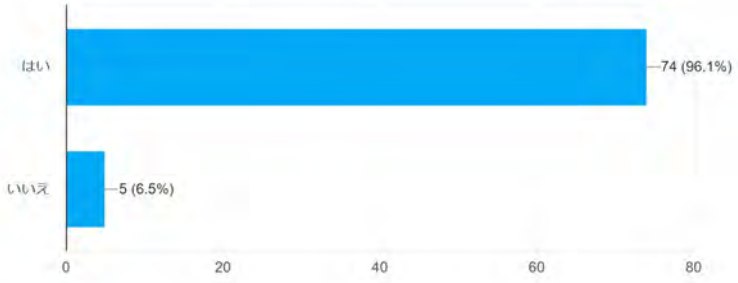
3.本大会に参加して良かったですか。

77 件の回答



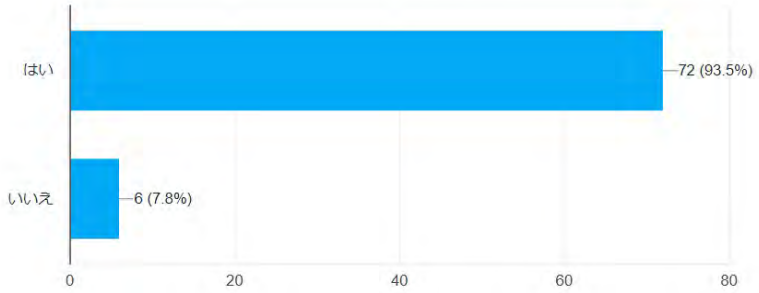
4.大会資料(会議細則・BG・当日パンフなど)は見やすかったでしょうか。

77 件の回答



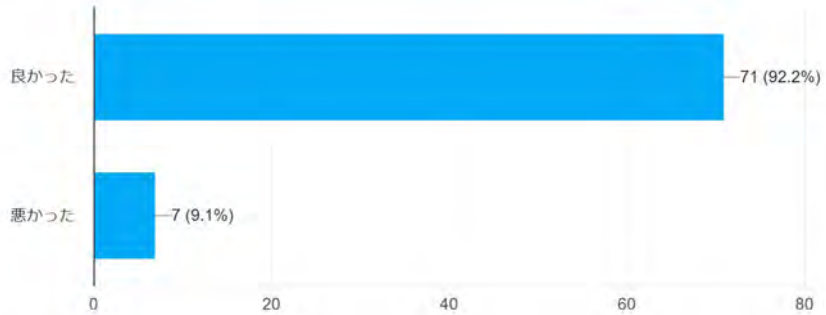
5.今後も模擬国連活動を続けていきたいとお考えですか。

77 件の回答



6.本大会の全進行・公式HP・説明動画等の配信は、高校生の実行委員が担当しました。実行委員の仕事ぶりはいかがでしたか。

77 件の回答



自由回答 (太字は複数寄せられた意見)

< 会議進行についてのご意見 >

- **模擬国連の進行がよかった。**
- **時間配分を変えるべき。**特に DR 提出までの時間があまりなかった。
- **開会式・閉会式・基調講演に時間がかかりすぎていた。**
- 大事な場面でスタッフがいなくなり、メモ回しが出来なかった。
- DR の形式等で初心者に対する説明がなかった。

< 運営・企画についての意見 >

- **飲食可の会場がよかった。**
- **PP を配布して欲しかった。**
- **ホームページ上での変化 (交流会のことなど) が頻繁だったので連絡が必要である。**
- **英語を使う機会が少なかったので公式討議だけでも英語にする、などとして欲しい。**
- 初心者に行動を促すべき。
- フロントの人選について、同じ高校など偏りが多すぎたので考えるべき。
- 交流会の内容に関して事前説明があるべき。

< その他のコメント >

- **普段知り合えない全国各地の模擬国連経験者と触れ合えた。**
- **初めて模擬国連に参加したが、楽しむことができた。**
- **新たなスタイルの模擬国連ではあったが、企画がしっかりしていた。**
- **日本語で行われる全国規模という滅多にない会議にでられて良かった。**
- 経験値に差があって、良い刺激になった。

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）より

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）は、全国中高教育模擬国連研究会（全模研）とともに第１回全国高校教育模擬国連大会を開催し、全国の高校生に向けた模擬国連活動の普及に努めております。本大会の開催に際してご協賛・ご協力をいただいた企業様・団体様に改めて深く御礼申し上げます。

第１回大会を終え、特に初回で手探りの中、大会の開催に向けてパワフルに活躍してくれた高校生実行委員の一人ひとりの働きは大きかったと振り返ります。今回の経験が効果的に橋渡しされて、第２回、第３回と、より充実した大会を提供できるよう、事務局としてますます取り組む所存です。

最後になりますが、今大会開催にご尽力いただいた関係各位の皆様方に、心より御礼申し上げます。今後もますます本大会事業が発展して行きますよう、ACCU としても精一杯努めてまいります。今後ともご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。

【ユネスコ・アジア文化センター (ACCU：Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO) について】
ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) はユネスコ (UNESCO、国際連合教育科学文化機関) から「アジア太平洋地域での文化の相互交流を促進する中核的センター」の設置を打診されたことを契機に、1971 年に日本政府と出版界を中心とした民間の協力によって設立されました。設立以来、ユネスコのうたう「平和は、人類の英知と精神的な連帯のうえに築かれるものである」という精神のもとに、日本を拠点にアジア太平洋地区諸国の教育と文化の分野でユネスコや各国関係団体と協力して、人材の育成と相互交流を促進する事業を行なっています。　2011 年 11 月からは「公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター」として、これまで以上に関係機関と連携して地域の現状と社会の要望に即した事業を展開しています。

大会運営代表より

「大会は成功でしょうか」

公文国際学園中高等部　教諭　　米山　宏

北は北海道、南は九州まで全国から 500 名余りの参加者を集めて、第 1 回全国高校教育模擬国連大会を無事終了することができました。この大会は公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）と全国中高教育模擬国連研究会（全模研）との両者で主催された大会でしたが、元をただすと、全模研が開催を発案しています。既にご承知かと思いますが、毎年 11 月に開かれる全日本高校模擬国連大会は書類審査を経た限られた数の生徒だけしか参加できません。高校の現場では様々な場面で模擬国連活動が取り入れられているのに、校内に限っての活動では肝心な議論が気心の知れた生徒同士のものになってしまう・・・もっと異質なバックグラウンドを持った他校の生徒とコミュニケーションを取れるようにしたい・・・全模研の先生方がより多くの学校から誰でも参加できるという新しいコンセプトの大会を発案するのはむしろ必然だったような気がします。

今回、この大会を特徴づける付加価値として「高校生の高校生による高校生のための大会」というキャッチフレーズを掲げました。ただ言うは易く行うは難し。全国から応募があった希望者を中心に構成された実行委員会による運営は、すべてがサイバー空間上でのやりとりで、教員の指導は言うに及ばず、実行委員の生徒同士もこの上ない不便さを感じていたようです。それでも彼らはそのハードルを乗り越えて準備を進め、当日には役員教員をしてレジェンドと言わしめた活躍を見せてくれました。

そして、もう一つの付加価値として掲げたのが、大会名に表れた「教育」です。初心者を念頭に置いた大会ですから、全ての参加大使に模擬国連の教育的意義を感じて欲しいと考えたのと同時に、実行委員の生徒であっても、その準備を通して人間的成長が促されるものであって欲しいという意図がありました。

参加大使の皆さん、そして実行委員の皆さんに問いたいと思います。「大会は成功でしょうか？」楽しかったですか？参加して良かったですか？成長を実感できましたか？この大会で何を得ましたか？

私は自らが主催した大会でその成否を判定することに躊躇があります。ひょっとしたら大会の成否は参加者の皆さんが決めるものなのかもしれないと思いました。いや、むしろたった 1 回の開催では大会の価値は計れず、2 回 3 回と回を重ねて初めて評価が下されるものなのかもしれません。私はよく模擬国連の意義は国連の存在意義そのものであるはずだと伝えています。回を追う毎に大会がステップアップし、関係した全ての皆さんが模擬国連の本当の意義を理解できるような大会にまで発展したときに初めて「大会は成功した」と言えるのでしょう。

いずれにせよ、参加大使や実行委員生徒にとって、今大会における経験はかけがえのない財産になったはずで、このような機会が与えられたことはひとえに全模研の先生方や ACCU をはじめ、協賛協力企業・団体のご支援の賜物です。最後に、この場をお借りして本大会の運営代表として御礼を申し上げるとともに、この素晴らしいプログラムを継続させるために今後ともお力を拝借できるのであれば、日本の高校教育にとって紛れのない福音であることを断じて筆を置きたいと思います。ありがとうございました。

主催

公益財団法人　ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
全国中高教育模擬国連研究会（全模研）

後援

外務省
全国都道府県教育委員会連合会
日本私立中学高等学校連合会
東京都教育委員会
一般財団法人東京私立中学高等学校協会
公益財団法人日本国際連合協会
国際連合広報センター
認定 NPO 法人国連ウィメン日本協会
株式会社読売新聞東京本社

国立オリンピック記念青少年総合センター

協賛

学校法人河合塾
公益財団法人公文国際奨学財団
株式会社公文教育研究会
株式会社 JTB コーポレートセールス教育第一事業部
株式会社 JTB コーポレートセールス法人営業横浜支店
近畿日本ツーリスト株式会社東京第一教育旅行支店
近畿日本ツーリスト株式会社首都圏国際交流センター
近畿日本ツーリスト株式会社横浜教育旅行支店

協力

グローバル・クラスルーム日本委員会
理想科学工業株式会社

理想科学工業株式会社提供
オルフィスシリーズ＆　リソグラフ

大会参加校一覧

AICJ 高等学校
浅野高等学校
朝日塾中等教育学校
麻布高等学校
市川高等学校
追手門学院中高等学校
鴎友学園女子高等学校
大谷高等学校
大妻中野高等学校
お茶の水女子大学附属高等学校
海城高等学校
海陽学園中等教育学校
神奈川学園高等学校
神奈川県立横浜国際高等学校
金沢大学附属高等学校
岐阜県立関高等学校
公文国際学園高等部
群馬県立高崎女子高等学校
ぐんま国際アカデミー高等部
慶應義塾高等学校
慶應義塾女子高等学校
晃華学園高等学校
佼成学園女子高等学校
国際基督教大学高等学校
金光大阪高等学校
札幌日本大学高等学校
渋谷教育学園幕張高等学校
頌栄女子学院高等学校
昭和女子大学附属昭和高等学校
女子学院高等学校
自由学園高等科
逗子開成高等学校
駿台甲府高等学校
星城高等学校
聖心女子学院高等科
高田高等学校
玉川学園高等部
筑波大学附属坂戸高等学校
桐蔭学園高等学校
桐光学園高等学校
桐朋高等学校
豊島岡女子学園高等学校
千葉県立千葉東高等学校
中央大学杉並高等学校
中央大学附属高等学校
東京インターハイスクール
東京女学館高等学校
東京都立杉並総合高等学校
豊島岡女子学園高等学校
新潟明訓高等学校
西大和学園高等学校
広島女学院高等学校
福山市立福山高等学校
富士見丘高等学校
富士見高等学校
法政大学女子高等学校
三輪田学園高等学校
明治学園高等学校
山手学院高等学校
山梨県立吉田高等学校
山脇学園高等学校
横浜雙葉高等学校
ラ・サール高等学校
立教女学院高等学校
立命館高等学校
立命館守山高等学校
早稲田実業学校高等部
早稲田大学本庄高等学院

中学生トライアル参加校一覧

神奈川学園中学校
かえつ有明中学校
渋谷教育学園渋谷中学校
渋谷教育学園幕張中学校
鴎友学園女子中学校
広島女学院中学校
実践女子学園中学校
昭和女子大学附属昭和中学校
新潟明訓中学校
聖心女子学院中等科
浅野中学校
東京韓国学校中等部
富士見中学校
麻布中学校
立教女学院中学校
頌栄女子学院中学校

大会役員一覧

【大会運営代表】 米山　宏（公文国際学園中等部・高等部）
【　同　副代表】 青木　文（公益財団法人　ユネスコ・アジア文化センター）
【　同　副代表】 竹林　和彦（早稲田実業学校）
【総務広報セクション】
宮坂　武志（浅野中学・高等学校）
後藤　芳文（玉川学園中等部・高等部）
米山　宏（公文国際学園中等部・高等部）
【運営受付セクション】
関　　孝平　（かえつ有明中・高等学校）
奥井　雅久　（実践女子学園中学校高等学校）
柿岡　俊一　（埼玉県立浦和西高等学校）
【フロント・アドミニセクション】
室崎　摂　　（渋谷教育学園渋谷中学高等学校）
飯島　裕希　（頌栄女子学院　中学校・高等学校）
齊藤　智晃　（渋谷教育学園幕張中学校・高等学校）
竹林　和彦　（早稲田実業学校）
【大会顧問】
星野　俊也　（国際連合日本政府代表部大使、
前大阪大学大学院　国際公共政策研究科教授）
二ノ宮　正和　（公益財団法人　ユネスコ・アジア文化センター）

実行委員生徒一覧

【総務広報セクション】

実行委員長　　飯田　優太郎（浅野高等学校）

副委員長　　尾先　由崇（札幌日本大学中学校・高等学校）

副委員長　　橋本 周大（東大寺学園高等学校）

宗武　陸（浅野高等学校）

植村　瞭（浅野高等学校）

小畑　夏音（ぐんま国際アカデミー高等部）

西田　梨花（新潟明訓高等学校）

佐藤　萌花（玉川学園高等部）

平間　優太（札幌日本大学中学校・高等学校）

【運営受付セクション】

セクションリーダー　小林　妃奈（かえつ有明高等学校）

桶谷　里緒（かえつ有明高等学校）

安田　悠（上宮高等学校）

松永　凜（上宮高等学校）

山﨑　慈（長野県飯山高等学校）

宮沢　麻莉奈（長野県飯山高等学校）

Thein Grace（大妻中野高等学校）

竹中　萌（桐光学園中学校・高等学校）

橋場　芽衣（ぐんま国際アカデミー高等部）

椎名　希帆（渋谷教育学園渋谷高等学校）

北　真緒奈（高田高等学校）

田坂　すみれ（東京都立国際高等学校）

【フロント・アドミニセクション】

セクションリーダー　上野　蘭晶（渋谷教育学園渋谷高等学校）

梶谷　菜々美（渋谷教育学園渋谷高等学校）
澤田　碧砂（渋谷教育学園渋谷高等学校）
川原　月（渋谷教育学園幕張高等学校）
追川　優菜（渋谷教育学園幕張高等学校）
荻内　麻衣 (青山学院高等部)
寺岡　二千和 (青山学院高等部)
黒澤　万理亜 (青山学院横浜英和高等学校)
佐藤　茜音 (青山学院横浜英和高等学校）
藤森　日彩 (頌栄女子学院高等学校)
武藤　里奈 (頌栄女子学院高等学校)
椋木　しゅりあ (頌栄女子学院高等学校)
米倉　裕香 (東京韓国学校高等部)
志水　孝助 (東京韓国学校高等部)
鈴木　由里香 (東京都立国際高等学校)
櫻井　郁子 (東京都立国際高等学校)
油谷　凜（大阪府立春日丘高等学校）
岡田　茉莉乃 (大阪府立春日丘高等学校)
渡邉　未来（新潟明訓高等学校）
小林　千夏（浦和明の星女子高等学校）
秋田　陽香（桐光学園中学校・高等学校）
山田　優衣 (実践女子学園高等学校)
武内　璃美 (横浜雙葉高等学校)

編集・発行　第 1 回全国高校教育模擬国連大会
高校生実行委員　総務広報セクション

発行年月日：平成 29 年 11 月